

報告書

教育先進都市 神戸を目指して 教育界の現状の課題と解決に向けて:Part2

株式会社 T.I.E
株式会社首都圏中学模試センター

2022年6月30日

【1. 調査の目的】

1. 調査の目的

2. Part.1 の振り返りと深掘り
3. 教育先進都市・神戸としてふさわしい教育とは？
4. 中高一貫校とは？
5. 中高 6 年間一貫教育の魅力と特質とは？
6. 公立中高一貫教育校を立ち上げるために考える大事なこと

(調査目的)

◇ 前回の調査で多くの自治体が先進的な学校の設立／教師人材の育成を行っている事例、新たな評価軸に沿った公立校の事例を中心に発表をした。

◇ 本調査の趣旨／その意義は、神戸の都市としての魅力を高めるためである。そのためには、「子供たちへの教育」は大きなテーマであり、そのための教育インフラの充実が自治体行政の大きな命題である。パート1で取り上げた先進的な教育の事例から多くを学ぶことは重要な取り組みである。

◇「中高一貫校の設立」「課題解決型/探究型授業」その中で求められる「評価」「教師の力」「採用試験の在り方」「人材の養成」・・・など存在すべき先進型の教育について、神戸市としてどう対応するか、さらに深掘りすることはパート2で必須である。

一方で、このような先進的な取り組みを実現するためには多くのハードルがあったはずである。特に「公平/平等」を旨とする公立教育の中で既存の体制を見直し、先進的な取り組みを行う上では様々な拒否感、反対の動きがあったはずである。そのような意見/動きにどのように対応し、実現に至ったか、その道程についても市政/行政を行う上で大きな参考になりたい。

◇ 上記の通りパート2においては、パート1での先進的な取り組みから抽出される要素をいかに神戸市の教育に生かすか、とりわけ教員の採用や人材育成面での問題点、教育インフラの充実に向けた提言を行うとともに、先進的な教育制度を導入する上で合意形成をいかに行ったかを取材し、今後の参考とする。

【2. Part.1 の振り返りと深掘り】

1. 調査の目的
2. Part.1 の振り返りと深掘り
3. 教育先進都市・神戸としてふさわしい教育とは？
4. 中高一貫校とは？
5. 中高 6 年間一貫教育の魅力と特質とは？
6. 公立中高一貫教育校を立ち上げるために考える大事なこと

Part.1 では、「教育の大変革期における小生徒の学力の向上と、今後の教員採用試験と人材育成の在り方」というテーマで日本全体の動きと視点から調査しました。

日本全体の動きと視点から調査しながら下記のそれぞれの内容についてお伝えしました。

- ・大きく変わろうとしている社会の変化と教育
 - ・Society5.0 とGIGAスクール構想
 - ・学習指導要領の改訂について
 - ・大学入学者選抜改革について
- ・全国における神戸市の教育レベルと課題
- ・これから必要とされる教師の力は何か？
- ・地方自治体の行政として何が出来るのか？
- ・地方自治体の行政として成功事例

今回は学習指導要領の改訂や、大学入試改革、社会の変化の中で、学校が対応を迫られている授業や評価法の変化への対応や、新しい時代の教育に対応する教師の採用や教師の育成について深掘っていきたいと思います。

これからの社会で求められる力を育てるまったく新しい「21 世紀型教育」

2024 年度以降の本格的な大学入試改革が明確になったいま、現在小生徒の子どもは、誰もがこの次世代の大学入試制度の当事者世代であることを念頭に、わが子の進路を考え、学校選びをする必要が出てきたと考えておくべきでしょう。

この新たな大学入試制度が導入される目的は、この先のグローバルな世界・社会で生きていくために求められる課題発見・問題解決の力や、これから先の AI(人工知能)の時代に必要とされる創造的思考力を育てるためであり、その改革のベースにある理念は、従来の高校教育や大学入試(=日本の教育)で重視されてきた知識習得型の学力観・教育観そのものを大きく変革しようとするものでもあります。

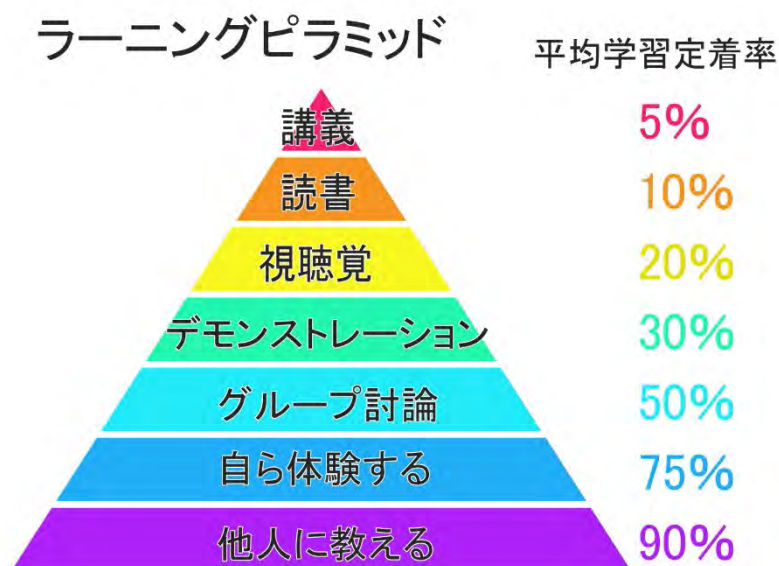
「日本語 IB プログラム」や「探究学習」の導入推進、さらに多くの「海外留学」を勧めるためのプログラムや補助金制度の導入の背景にも、こうした考え方があるといえるでしょう。

アメリカ・デューク大学の経済学者キャシー・デビットソンは「2011 年度にアメリカの小学校に入学した子どもの 65%は、大学卒業時に、いまは存在しない職業に就くだろう」と予測しました。いまの保護者が生きる現代と、子どもたちが近い将来、社会の中軸を担う 10 数年後の社会とでは、それだけ大きく様相が異なってくることを例えたものです。

そうした将来の社会を生きる子どもたちは、いま何を学び、何を身につければよいのでしょうか。それは自ら学ぶ力、すなわち、より良く生きる力です。知識や情報は、インターネットの普及によって身の回りにあふれています。大事なのは、それらの知識や情報を選択し、問題を解決していくために必要なスキルを身につけていく姿勢です。

つまり、これからの時代の教育には、知識を詰め込むのではなく、自ら問題を発見し、自ら考え、解決に向けて行動していくために、(生涯にわたって)学び続ける力を育てることが求められているということです。

たとえば、アメリカで開発された「ラーニングピラミッド」という、学習の手法と学習効果の関係を段階に分けて説明したモデル図を見てみましょう。上から下に向かうにつれて学習効果が高まる(%が上昇する)といわれています。講義をただ聞くよりも、討論したり、体験したり、学習者自身が教えた方が学習効果は高まるという説を図示したもので、つまり学習者に主体性を持たせるほど効果的という考え方です。



世界標準の教育

アクティブラーニング、課題解決型学習、探求型学習、双方向・対話型授業

こうした考え方を学習のスタイルに反映させたものが、最近の教育の課題として言われるようになった「アクティブラーニング」であり、「PBL(Project-Based Learning = 課題解決型学習)」や「PIL(Peer Instruction Lecture = ピアインストラクションレクチャー)型授業」、「双方向型・対話型授業」、「ICT 授業」などと呼ばれる新しい学習スタイルを含めた、いわゆる「21 世紀(未来)型教育」と表現される教育の手法です。

そしてそうした学習のスタイルが促す生徒の能動的な学びのベースは、いま教育の世界でもうひとつの大きな話題となっている「IB(国際バカロレア)プログラム」、「ダブルディプロマ・プログラム」なども含めた「世界標準の教育」にも共通するものです。

以下、アクティブラーニングのコアとなる3つのカテゴリーをご紹介します。

●アクティブラーニング

変わる日本の教育と大学入試に向けての最大の課題。「双方向型」「相互通行型」「参加型」「対話型・討論型」など、いろいろな表現をされますが、「一方的な講義形式ではなく、生徒が自分のアタマをフルに使って積極的・能動的に参加する(できる)授業形態」と理解しておけばよいでしょう。

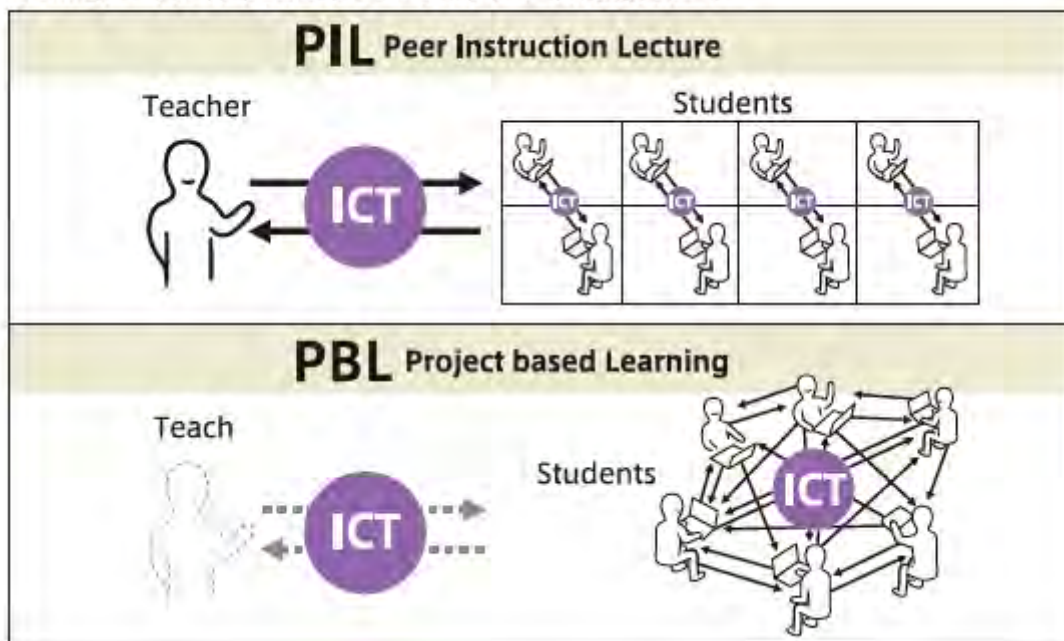
PI (Peer Instruction)

ピア・インストラクションは、生徒同士の議論を組み込んだアクティブラーニング型授業の一つ。ハーバード大学のエリック・マズール教授によって、1990 年に大規模講義における双方向的な教授法として開発された。

PIL (Peer Instruction Lecture)

PIL 型講義は、講義に対話を導入するタイプ。PI はマズール教授考案のもので、そこをヒントに「21stCEO(21 世紀型教育機構)」では PIL という呼称で、もう少し発展させている。「21stCEO」ではその中でも「PIL × PBL」という形式を創った。

● ex. ピア・インストラクションとプロジェクトベースの授業イメージ



PBL 課題解決型学習 (Project Based Learning)
問題解決型学習 (Problem Based Learning)

学習者自身が中心となり、反省的反復の作業を伴いながら実践される少人数グループの教育手法で「問題にもとづく学習」。実践の場での問題解決などが職業的スキルとして重要視される教育課程でしばしば採用される。問題(problem)が与えられてもプロジェクト(project)が与えられても、少人数グループ学習では具体的な課題について洞察、観察、対話、交渉、反省、学習の再構築という過程が見られる点で、奇しくも2つの PBL は共通点が多く、また、その教育理論の検討においても協働できる可能性が高いといわれている。

以上、アクティブラーニングの3つのカテゴリーを紹介しました。

これに関連して、学校・家庭・地域が力をあわせ、社会全体で、子どもたちの「生きる力」をはぐくむために新しい学習指導要領がスタートしましたが、その中でキーワードとなっているのが「探求学習」です。

探求型学習とは？

生徒の自主性や主体性を重視し、知識やスキルを自らの力で獲得するための教育手法です。従来の講義形式ではなく、自らが課題を設定し、解決に向けて情報を収集分析し、周囲の人と情報共有や意見交換、協力をしながら進めていく学習活動です。

また①課題の設定→②情報の収集→③整理・分析→④まとめ・発表の探求のプロセスを繰り返しながら学びを深めていきます。

探究型授業では、次のような特徴があります：

1. 問いの発掘

生徒は興味や関心を持ったテーマや問題を自ら見つけ、探求します。教師は生徒の興味関心に合わせた問いを引き出し、学習の方向性をサポートします。

2. 自己学習と調査

生徒は自分自身で情報を収集し、調査を行います。インターネットや図書館などの資料を活用し、情報の信頼性や適切性を判断しながら学びを深めます。

3. 協働学習

生徒同士や教師とのコラボレーションが重要な要素です。グループでのディスカッションやプロジェクトを通じて、アイデアの交換や相互の学び合いが促されます。

4. 問題解決と創造性

生徒は問題解決のプロセスに従って学びます。現実の問題に直面し、分析や考察を通じて解決策を見つけることで、創造性や批判的思考能力を養います。

5. 発表や成果報告

生徒は自身の学びをまとめ、発表や成果報告を行います。他の人に対して自分の考えを伝えることで、学んだ内容をより深く理解し、フィードバックを受けることができます。

探究型授業は、単に情報の受け身な暗記ではなく、主体的な学びや問題解決能力、コミュニケーション能力を育むための手法として注目されています。生徒が自ら学びを追求し、自己成長する機会を提供することで、より意味のある学習体験を実現することが目指されています。

このような探究の授業や活動を学校で行う際にルーブリック評価のような新しい評価軸が必要になっています。

「ルーブリック評価」

ルーブリック評価は、評価基準や尺度を用いて、生徒のパフォーマンスや成果を客観的に評価する手法です。探求型学習や課題解決型の学びの中で、評価項目や基準、評価レベルなどから構成される評価ツールであり、教師や評価者が生徒の作業やプロジェクトを評価する際に参考となるガイドラインとなります。

ルーブリック評価では、以下のような特徴があります

1. 評価基準の明確化

ルーブリックは、評価する要素や基準を明確に示します。例えば、文章の内容や論理性、表現力などの項目を設け、それぞれの基準に対して評価レベルを設定します。

2. 評価の客観性

ルーブリックには評価レベルが示されており、評価者は生徒のパフォーマンスがどのレベルに該当するのかを判断します。これにより、主観的な評価の偏りを減らし、客観的な評価が可能となります。

3. フィードバックの提供

ルーブリックは評価基準を詳細に示しているため、生徒に対して具体的なフィードバックを提供することができます。生徒は自身の強みや改善点を把握し、次の段階での成長につなげることができます。

4. 目標の明確化

ルーブリックは評価基準が明確に示されているため、生徒は自身の目標や期待されるレベルを把握することができます。これにより、学習の方向性を明確にし、より具体的な目標に向かって取り組むことができます。

ルーブリック評価は、教育現場やプロジェクトの評価に広く利用されています。生徒の成果評価や能力の評価において、客観的かつ明確な評価を行うための有効なツールとされています。また、生徒の自己評価やピア評価にも活用され、学習者の自己評価能力や評価基準の理解を促す役割も果たしています。

聖園女学院中学校(神奈川女子校)の総合型選抜のルーブリック評価

	5点～4点	3点～2点	1点～0点
①提案	課題をよく理解したうえで、具体的な提案をしている。	課題に沿った提案をしている。	課題と提案がかみ合わない。または提案を明確に示していない。
②分析	反対意見も紹介しながら自分の提案を様々な角度から分析している。	自分の提案に対する反対意見を紹介している。	自分とは違う意見があることを想像できていない。
③結論	自分の考えを筋道立てて説明したうえで、説得力ある結論を導いている。	自分なりの結論を導き出している。	課題と結論が一致していない。または結論を明確に示していない。
④独自性と考えの深まり	独自の意見を展開し、課題に対する考えを深めている。	課題について考えを深めていこうとする姿勢が見られる。	課題への取り組みが表面的で、考えを深めるに至っていない。
⑤文章技術	文章構成がしっかりしており、言葉の選び方に表現力が感じられる。	文章構成を意識し、わかりやすい言葉で述べている。	文章構成を意識しておらず、言葉の適切さにも欠ける。

探究型授業やルーブリック評価を使った教育における教師の役割とスキルとは？

探究型授業やルーブリック評価を使った教育における理想の教師として、情熱を持ち、教育に真剣に取り組むことが求められます。また、深い専門知識を身につけ、教育の理論や実践について継続的に学ぶ必要があります。

さらに教師は生徒の探究的な学びを促進し、問いを立て、探求するスキルを育む役割を果たします。生徒たちが自ら学びを主導し、自己表現や批判的思考を発展させるためのサポートをし、教師は生徒とのコミュニケーションを大切に、対話を通じて意見を交換します。生徒たちが思考を深め、アイデアを共有する場を提供し、個別のニーズに応えるためのコミュニケーション能力も必要となります。

教師は生徒の成長を促すために適切なフィードバックと評価を提供します。生徒たちが自身の進歩や改善点を認識し、自己評価能力を向上させることができます。教師は自己成長に取り組み、最新の教育研究やベストプラクティスを学び続けることが重要です。また、他の教師や専門家との共同学習を通じて知識やアイデアを共有し、教育の質を高めます。

このような取り組みを組み合わせることで探究型授業やルーブリック評価を実践する教師は、生徒たちの自己成長を促し、創造性や問題解決能力を育成します。教師は教育研究に積極的に取り組み、生徒の学びに貢献する貴重な存在となります。

探究型授業やルーブリック評価を使った教育における教師の採用と育成は どうすればよいのか？

次世代の先進的な教育に対応するための優秀な教師の採用と育成について具体的な戦略を以下に示します。

1. 優れた教師を引き寄せる

採用プロセスは教師の最初の接点であり、その教育哲学とビジョンを明確に示すことで、優れた教師を引き寄せることができます。また、教育に対する情熱と探究型教育やルーブリック評価に対する理解と経験を持つ教師を探すことが重要です。

教師も常に希望と自己実現の場を求めているのでどんな教育をやろうとしているのか共感により優秀な教師を引き寄せることができます。

2. 教師の育成とプロフェッショナルデベロップメント

教師が成功するためには、定期的なプロフェッショナルデベロップメントと支援が必要です。これには、教師が自己反省を行い、自分の教育方法を改善するための時間とリソースを提供することが含まれます。また、新しい教育方法や評価手法についてのトレーニングも重要です。

より優れた教師になるために、学校は定期的な「プロフェッショナルデベロップメント」という活動を提供する必要があります。個人の基礎能力や専門能力を高めるために実施するトレーニングであり、米国ではキャリア・ディベロップメントと呼ばれることもあります。これはまるで、スポーツ選手がトレーニングを行い、スキルを磨くのと同じです。「教育研修」では、新しい教え方を学んだり、最新の研究を知ることができます。それはまるで、新しいプレイの戦術を学ぶようなものです。

また、「メンターシップやコーチング」は、経験豊富な先生からアドバイスをもらうことで、自分の教え方を見直したり、改善することができます。これは、コーチからフィードバックを受けて技術を磨くのと似ています。

さらに、教師がお互いに協力して教え方を共有したり、問題解決を行う「教師間の協力」も大切です。これはチームワークを大切にするスポーツと同じです。

最後に、先生方の健康と幸せを守るための「福利厚生と健康」のサポートも大切です。これがあると、先生方は長く、高いパフォーマンスを続けることができます。これは、選手がケガをせず、長く活躍するために、栄養管理や休息が必要なのも同じです。

これらの活動で、教師は常に成長を続け、生徒たちに最高の教育を提供することができます。

3. 教育環境の構築

探究型学習やルーブリック評価などの先進的な教育を効果的に行うためには、それを支える教育環境が必要です。これには、生徒の自由な探究を奨励するための教室の設計や、生徒の個々の学習ニーズに対応するためのリソースが含まれます。

4. コミュニティとの協力

学校はコミュニティの一部であり、地域の企業や大学、非営利団体との協力関係を構築することで、生徒にリアルワールドの学習体験を提供することができます。

5. 教師の働きやすさと福利厚生

教師が長期的に学校に留まり、そのスキルを最大限に活用するためには、教師の働きやすさと福利厚生が重要です。これには、公正な給与、良好な労働条件、プロフェッショナルな開発の機会、教師間の協力とメンターシップを奨励する環境などが含まれます。教師が自分の仕事に満足感を持ち、自分の能力を最大限に発揮できるようにすることが、優れた学習体験を提供するための重要な要素です。

6. 教師のリーダーシップの育成

教師がリーダーシップを取ることを奨励し、教師が自分のクラスルームだけでなく、学校全体や地域社会に影響を与える能力を育てることも重要です。これには、教師が新しいプロジェクトを提案し、学校の教育方針やプログラムの開発に参加する機会を提供することが含まれます。

7. 生徒中心の教育文化の醸成

生徒の学習を中心に置く文化を醸成することで、生徒の探究心を育て、教師と生徒の間の相互理解と尊重を深めることができます。これには、生徒の意見や提案を尊重し、教師が生徒の学習ニーズと興味を理解し、それに基づいて教育を進めることが含まれます。

このような内容に取り組むことで、探究型授業やルーブリック評価を使った先進的な教育を行う教育環境を作り出すことが可能になります。教師の採用と育成は、その成功の鍵となる要素です。

【3. 教育先進都市・神戸としてふさわしい教育とは？】

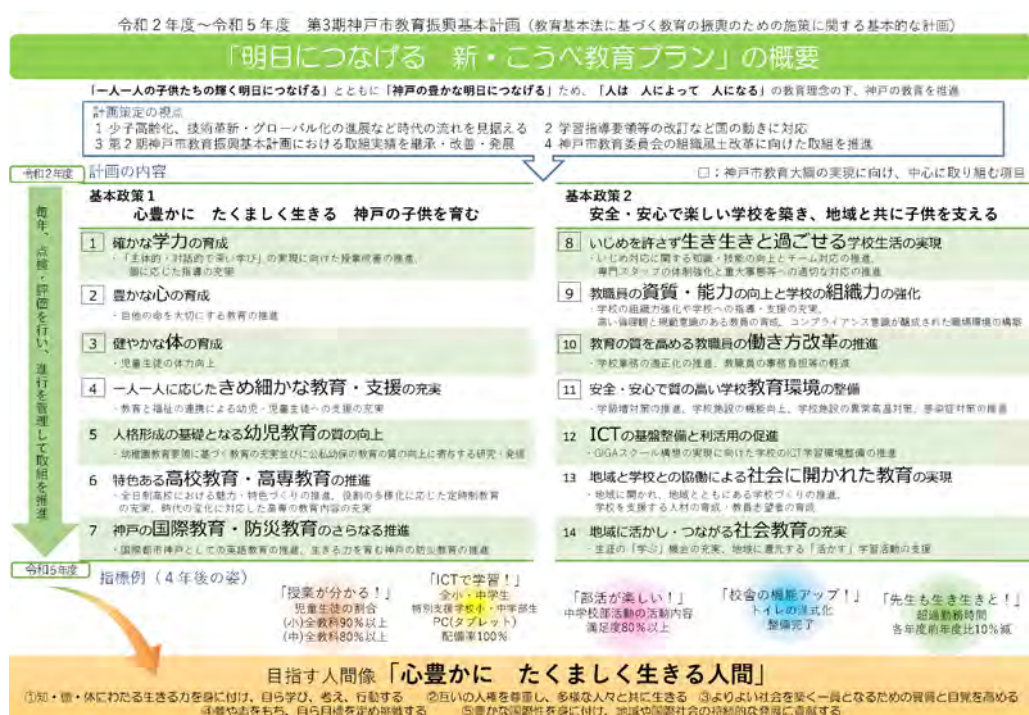
1. 調査の目的
2. Part.1 の振り返り
3. 教育先進都市・神戸としてふさわしい教育とは？
4. 中高一貫校とは？
5. 中高6年間一貫教育の魅力と特質とは？
6. 公立中高一貫教育校を立ち上げるために考える大事なこと

神戸市は、阪急電鉄をはじめとする交通インフラの発展とともに、学校誘致や文化・経済・芸術の振興を通じて、都市の発展を遂げてきました。

かつて日本全国の中でも有数の教育先進都市だった神戸市ですが、現在では全国学力・学習状況調査の平均を上回っているものの、他の自治体が先進的な教育手法を積極的に取り入れ、既存の学校を新しい時代に合わせた学びを実現する学校へと変貌させる動きの中で後れをとっている状況です。

この章では、現在の神戸市の教育行政の動きと、神戸市のビジョンから教育先進都市・神戸としてふさわしい教育を提案していきたいと思えます。

神戸市の取り組み「明日につなげる 新・こうべ教育プラン」



神戸市ではすでに新学習指導要領への対応、教師の不祥事など神戸市の教育課題を解決するため「明日につなげる 新・こうべ教育プラン」(令和2年度～令和5年度)を計画的に進めており、各学校現場への新しい教育への対応を順次進めております。

神戸の教育理念「人は 人によって 人になる」

目指す人間像 「心豊かに たくましく生きる人間」

1. 知・徳・体にわたる生きる力を身に付け、自ら学び、考え、行動する
2. 互いの人権を尊重し、多様な人々と共に生きる
3. よりよい社会を築く一員となるための資質と自覚を高める
4. 夢や志をもち、自ら目標を定め挑戦する
5. 豊かな国際性を身に付け、地域や国際社会の持続的な発展に貢献する

基本政策1 心豊かに たくましく生きる 神戸の子供を育む

- 重点事業1 確かな学力の育成
- 重点事業2 豊かな心の育成
- 重点事業3 健やかな体の育成
- 重点事業4 一人一人に応じたきめ細かな教育・支援の充実
- 重点事業5 人格形成の基礎となる幼児教育の質の向上
- 重点事業6 特色ある高校教育・高専教育の推進
- 重点事業7 神戸の国際教育・防災教育のさらなる推進

基本政策2 安全・安心で楽しい学校を築き、地域と共に子供を支える

- 重点事業8 いじめを許さず生き生きと過ごせる学校生活の実現
- 重点事業9 教職員の資質・能力の向上と学校の組織力の強化
- 重点事業10 教育の質を高める教職員の働き方改革の推進
- 重点事業11 安全・安心で質の高い学校教育環境の整備
- 重点事業12 ICTの基盤整備と利活用の促進
- 重点事業13 地域と学校との協働による社会に開かれた教育の実現
- 重点事業14 地域に活かし・つながる社会教育の充実

<https://www.city.kobe.lg.jp/a61516/shise/kekaku/education/dai3kiplan.html>

「明日につなげる 新・こうべ教育プラン」では、神戸市の教育の質と公平性を向上させるための取り組みがすでに行われており、教育委員と学校と教師が一体となって最高の教育を実現しようと取り組まれています。

神戸市のビジョンから神戸市にふさわしい教育を考える

現在の神戸市のビジョンを「海と山が育むグローバル貢献都市」の基本的な考え方を下記に上げました。

○ 豊かな自然と文化、多様な価値観が融合する神戸の強みを磨き、活かした新たな価値・スタイルを創造する

○ 人口減少時代に向き合い、神戸のあらゆる関係者が幸福を実感するまち・くらしの質を高め、成熟都市の魅力を訴求し、好循環へ転換する

○ 神戸に住み、働き、学び、楽しみ、を実現する

○ ダイバーシティ

※推進やジェンダー※平等の視点を確保し、女性が活躍できる環境を整え、外国人市民をはじめとした多様な市民の参画による多文化共生社会を実現する

○ 震災から再起した市民の知恵・気風を活かし、あらゆる危機への備え、誰一人として取り残さず、

人を大切にする安心・安全なまちを実現する

○ テクノロジーの実装・デジタル化の加速による市民生活の豊かさと利便性向上、経済活動の回復・成長、環境貢献など、SDGs の達成による持続可能な都市を実現する

※ ダイバーシティ…性別、人種、宗教、思想などあらゆる違い(多様性)を尊重し活かしていくこと

※ ジェンダー…社会的・文化的に形成された性別のこと

https://www.city.kobe.lg.jp/documents/35913/kobe2025vision_2.pdf

このビジョンをもとに公立中高一貫校を作るとどのような学校になるのか次のページで提案いたします。

ビジョンからの公立中高一貫校の提案

神戸市のビジョン「海と山が育むグローバル貢献都市」に基づき、公立中高一貫校は、教育先進都市・神戸としてふさわしい教育を提供します。

1. 豊かな自然と文化の活用

神戸の強みである豊かな自然と文化を教育に組み込み、生徒たちの創造力と感性を育みます。

2. 多様な価値観の尊重

ダイバーシティの視点を重視し、性別、人種、宗教、思想などの多様性を尊重しながら、生徒たちが共に学び合う環境を提供します。

3. 多文化共生社会の実現

外国人市民を含む多様な市民の参画を促し、異なる文化を理解し尊重する力を養います。

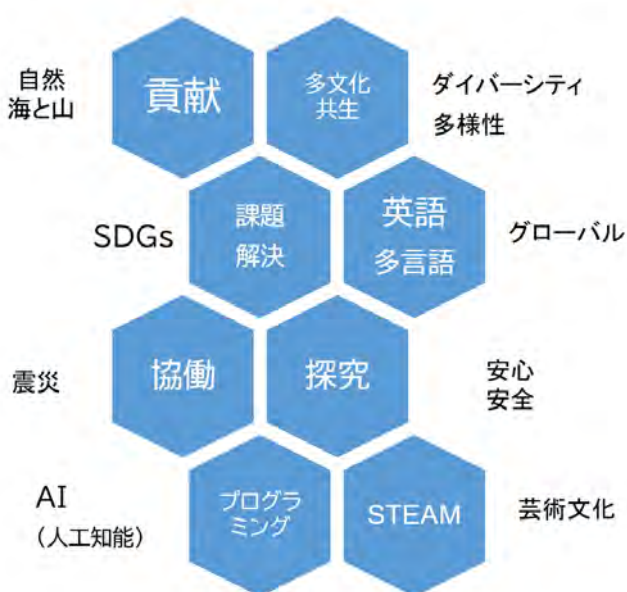
4. ウェルビーイングに基づく安心・安全な学びの場

神戸市民の知恵と気風を活かし、あらゆる危機に備えると同時に、誰一人として取り残さず、人を大切にする学びの場を提供します。

5. テクノロジーの活用

AI やプログラミング教育を取り入れテクノロジーの実装とデジタル化を進め、市民生活の豊かさと利便性向上、経済活動の回復・成長、環境貢献を通じて、持続可能な都市に貢献します。

このような教育を通じて生徒たちが創造力と国際性を備えた社会で活躍し、地元にも貢献できるよう育成します。



神戸2025ビジョンとは？

2025年度に向けた神戸の目指すまちの姿を示すとともに、その実現に向けた施策をまとめたものです。

ビジョンのテーマ (P.3)

「海と山が育むグローバル貢献都市」

豊かな自然環境、国際性や多様性、芸術文化といった神戸の強みを活かしながら、震災を経験し、乗り越えてきたまちとして、利他の思いを醸成し、広げていくとともに、環境保全などグローバルに貢献するまちづくりを進め、市民一人ひとりが安心して心豊かに幸せを実感できる都市をめざします。

基本的な考え方 (P.3)

次の6つの「基本的な考え方」を踏まえ、ビジョンの推進にあたります。

- ・豊かな自然と文化、多様な価値観が融合する神戸の強みを磨き、活かした新たな価値・スタイルを創造する
- ・人口減少時代に向き合い、神戸のまち・くらしの質を高め、成熟都市の魅力を訴求し、好循環へ転換する
- ・神戸に住み、働き、学び、楽しみ、あらゆる関係者が幸福を実感するまちを実現する
- ・ダイバーシティ*推進やジェンダー*平等の視点を確保し、女性が活躍できる環境を整え、外国人市民をはじめとした多様な市民の参画による多文化共生社会を実現する
- ・震災から再起した市民の知恵・気風を活かし、あらゆる危機への備え、誰一人として取り残さず、人を大切にする安心・安全なまちを実現する
- ・テクノロジーの実装・デジタル化の加速による市民生活の豊かさと利便性向上、経済活動の回復・成長、環境貢献など、SDGsの達成による持続可能な都市を実現する

先進的な公立中高一貫校の具体的な取り組み

【大阪市立水都国際中学校・高等学校】 ※首都圏模試センター取材より
英語で考えるを促す「国際理解」

「どっぷり英語につかる学習環境」。学校パンフレットにもそう書いてあるが、外国語(英語)以外の数学と理科、そしてグローバルスタディーズ(GS = 国際理解)を英語で学ぶのが水都国際最大の特徴。週 33 時間中 14 時間は英語による授業を展開する。数理はチーム・ティーチングが原則だ。中 1 を例にとると、週に英語が 1 時間標準より多く、加えて GS2 時間にやはり独自教科のコミュニティ&アクション(C&A = 社会活動)1 時間が加わるので、都合 4 時間は多く学ぶ。

中3の GS の授業から見た。いわば現代の国際的課題を英語で学ぶのだが、社会の授業も別枠である。母は日系人というオーブリー・ペル教諭はアメリカ出身で、水都に来る以前はインターナショナルスクールで 4 年間教えていた。その日の授業ではコレラや赤痢など汚染水によって広がる、水媒介性感染症について、病名ごとに割り振りされたグループごと調べ、次回のプレゼンテーションのため話し合う流れ。水溜りに湧く蚊などからうつる、マラリアやデング熱もそのうちに入るので、ホワイトボードに英語で書き付けてあった。生徒らはそれら病気について調べ、どうやったら感染を食い止められるかも考察し発表する。

これまでの授業では教科書を通じ、アフリカ・アジアの途上国の水資源の衛生環境について学んだ。2019 年のユニセフと WHO の報告だと、世界では 22 億人が安全な衛生管理をされた飲料水を確保できず、42 億人がまともなトイレを使うことができずにいる。水環境の保全是 SDGs(持続可能な開発目標)の 17 項目のうちの6番目に掲げられてもいる。生徒らは配付された Chrome ブックを駆使し、感染症について検索をする。英語入力しては日本語の病名がわからないまま右往左往という場面も。私にも英語の授業で初めて知る言葉や概念があった。英語を通じて覚えたので、知識が深く浸透したが、およそ高校時代のことだ。中学英語で学んだのは小学生でもわかる事柄だった。ペル教諭は語る。

「生徒たちは英会話ならよくできる。ただ、英語で考え、それを伝えるレベルまでにはまだ達していません。ただ、みんなエネルギーに学習に励むし、共同作業には長けています。6 年かければ実を結ぶでしょう」次いで回った、中 2 の Integrated Studies はいわば総合学習。美術科の教員免許も持つ藤田勝如教諭が、生徒らの考える力をまさに存分に引き出す。全体がディスカッションの様相を呈していた。2コマ続きの授業の 1 コマ目の前段、生徒らは 4 ~5 人でグループを作り、各グループでめいめい「夏休みに新たにチャレンジした

いこと」を語り合う。そして、藤田教諭はランダムに生徒を指名し、各人は思い思いの抱負を語る。

「毎日動物園に通いたいです」とある女生徒。藤田教諭は「ペットショップじゃダメなの？」と突っ込む。女生徒は「ええ。今は特にこだわりはなく、動物園のいろんなところを見てみたい」と回答。「カラコン(カラーコンタクト)をつけてみたい」という女生徒もいた。「グレーや青に目の色を変えるだけじゃなく、目を大きくするのもある」と別の女生徒が言い出し、やんやの盛り上ほとんどの機器が壊れ使用不能に。しかし、配られたリスト上の 15 アイテムは破損を免れた。必要なアイテムを見極め、母船まで辿り着くか救助を待つか、ともかく生き延びなければならない。まずは各自で考え、最後は全員で話し合う「コンセンサスゲーム」として有名なようだ。15 アイテムに重要度の高い順に1番から 15 番まで番号を振るのだ。

あるグループには SF 好きが固まっており、まず大気圏外にいるという大前提から、トントン拍子にアイテムをふるいにかける。聞けば、生物を教えるギル・カウソーン教諭の授業でも似た設定の映画を観たとか。「火星で一人ぼっちになった宇宙飛行士が奮闘する内容です。ギル先生は宇宙植物学専攻で、NASA の実験にも協力したそうです」と さん。

マット・デイモン主演の『オデッセイ』だ。主人公は事故に遭って死んだと思われ救助も来ない。だが、植物学者なので、なんとか残された物資でプランターを作り、水と食料を自給し生き長らえる。それに較べれば生徒らはチームだ。決して孤独ではない。

「専門的知識がないとアイテムの使い途がわからないが、例えばゴムボートなど本来の用途以外にどう使えるか、最後は柔軟な発想が鍵となる。それをみんなの話し合いで導き出します。砂漠バージョンもあるんですよ」と藤田教諭。太田晃介教頭も「どんな突拍子もない意見を言っても、バカにされない雰囲気当校にはある」と語る。要らぬ村度などしないのだ。太田教頭は開校準備段階から水都国際に関わるが、その時の募集案内では「一緒にリーダーとして学校を作ってくれる人、来てください」と呼びかけたという。

【東京都立武蔵高等学校附属中学校】 ※首都圏模試センター取材より

完全一貫で発展的学習がいつそう自在に

「地球学」を軸に未来を問う学びを展開

各教科で 21 世紀型学力の鍛錬を意識し、先進的な授業を展開する教員が関わってきた武蔵だが、一貫化前から総合的な学習の時間の枠組みに、教科横断型の「地球学」を独自科目として設けていた。この地球学が同校の柱と言えるだろう。附属中が併設される前々年に赴任した中村博指導教諭は、大学教授らとプロジェクトチームを作って地球学のカリキュラム作成に当たるなど、2 年間にわたって一貫教育体制を整えた。いわば、武蔵の生き字引と呼ぶに相応しい人物だ。

「ちょうどノーベル物理学賞を真鍋(淑郎)さんが受賞されましたが、その『気候モデル』が明らかにしたように、地球温暖化が現実問題になってきた。このままだと生物生態系を含めて地球が壊れてしまう。ただ、脱炭素・プラスチック問題などもバランスを取っていくことが重要。そのために地球学ではまず交渉学を教えています。自分の我を通すばかりではなく、相手の主張にちゃんと耳を傾ける。そこに問題解決の糸口があるんです」と中村指導教諭。意見のぶつかり合いを前提に、従来のディベートをより細分化させ、今年から中3生は校内で模擬国連にも取り組んでいる。慶應義塾大学に進み、模擬国連サークルの会長経験を持つ卒業生が指導役に当たり、生徒が各国の大使役などを務める。

事前の調べ学習が物を言うという。「中1ではまず地の利を生かし、周囲の雑木林や玉川上水へ地域巡検に出向きます。中2では『結い体験学習』という、新潟の農家に泊まっての稲作体験をします。そして、中3からは共通するテーマごとにグループ分けし、ゼミ形式で個人の課題研究に取り組みます。経過報告をしながら意見を戦わせ、最終的には論文にまとめ、プレゼンテーションソフトを駆使して発表も行います。完全一貫制に伴い、高1の地球学も週1時間から2時間に拡大されます。個人研究を中3と高1の2年間に延長し、より深化させられるんです」

地球学を立ち上げた当初、「SDGsという言葉もなかった」と語る中村指導教諭だが、「今や追い風が吹いている」と感じるようだ。この両者は地続きの関係だ。文部科学省の推挙もあって、今やSDGs流行りと言えるが、武蔵には一日の長がある。そのせいか、武蔵には生徒の学術大会出場を積極支援する勢いも強く、校舎にはいくつも、その成果を示す垂れ幕がかけられていた。

目下、ICT(情報通信技術)教育の推進も各公立一貫校に託された課題だが、武蔵でも現状は多くの他校同様、中学生全員にタブレット端末が配布されたに止まる。しかし、昨年の一斉休校時期を経て、今年は「オンライン授業も一定水準でこなせるようになった」、とは脇本勝通教務主任。

「不幸中の幸いというか、コロナ禍でオンラインが推進したのは確か。スマホしか持たない高校生への貸し出し分も用意可能です。ICTが授業でも活用できることは、一部の理解の早い教員だけでなく、全体にも浸透してきた。音楽や体育などの実技科目でも、生徒同士に撮らせた動画をチェックするほうが、しっかり演奏や演技が見られるんです」

現代の中高生は視覚聴覚に訴えないと、何事も飲み込みにかかる。逆に効果的に映像や音像を用いれば、どんな科目でも俄然理解が速くなる。脇本主任教諭は国語科で現代文も古文も教えるが、「作品の時代認識にもウェブ検索は一役買っている」と語る。

「たかが昭和期だって、今とは価値観が全然違う。授業中でもタブレットで調べさせながら、まずは価値観の違いがあることを理解させないと、作品を味わえません。今の子らにはダイヤルもチャンネルも“回す”物ではないんです」

コンピュータの倍速的な進化が象徴するように、それだけ現在を知り、未来を予測することが重視され、生活全般で過去を顧みる余裕がない。大人でさえ歴史から学ばなくなっている。しかし、ICT を活用すれば、とっつきにくい古典が今日まで生き延びてきた理由が手に取るようにわかる。6カ年一貫となれば、より大胆に ICT 化も推し進められるだろう。地球をよりよく変える学者や経済人が、武蔵から生まれる日もそう遠くない気がする。

以上、すでに公立の中高一貫校として独自の教育を行っている学校の事例を見てきましたが、神戸市としてどのような学校がふさわしいのか？今後様々学校を参考にしながら見出していくことになるでしょう。

【4. 中高一貫校とは？】

1. 調査の目的
2. Part.1 の振り返り
3. 教育先進都市・神戸としてふさわしい教育とは？
4. 中高一貫校とは？
5. 中高 6 年間一貫教育の魅力と特質とは？
6. 公立中高一貫教育校を立ち上げるために考える大事なこと

この章では、公立でも先進的で独自の教育が可能な中高一貫校について、多角的に調査した結果を報告します。

◎公立中高一貫校が誕生するきっかけ

1980 年代後半に入ると、東大合格者ランキングで、それ以前に都立ナンバースクール※1 が上位を占めていた時代に代わって、私立・国立の中高一貫校が数多く上位を占めるようになってきたことから、「大学受験における中高一貫校の優位性」に注目が集まり、“中学受験ブーム”ともいえる受験熱の高まりが顕著になりました。

※1 東京都立ナンバースクールは、東京都立高等学校の中で、東京府(現:東京都)による設立(移設)順を示す“ナンバー”を校名に冠した旧制中学校・旧制高等女学校を前身校に持つ 46 高校の総称

公立中高一貫校は、1999 年文部科学省が学校教育法を一部改正し、中学校・高等学校の中等教育を一貫とする教育を選択的に導入することが出来るようになり、全国に 500 校の設立目標に誕生した学校です。

設立の目的は、従来の中学校・高等学校制度に加えて、6 年間の一貫した教育課程や学習環境の下で学ぶ機会を選択できるようにすることで、教育の多様化を推進し、生徒一人一人の個性をより重視する教育を目指すものとしています。

各校の教育理念・生徒像については、ニュアンスの違いはありますが「次世代のリーダー」を育むことを掲げ、一般の公立中学校・高等学校とは異なるカリキュラムを組むことが認められています。これにより、中・高で重なる履修範囲のある歴史分野などは一本化して再編するなど、広く深く学習することが可能になりました。

(中高一貫校とは?)

中高一貫教育制度について

子供たちの進路選択の幅を広げ、学校制度の複線化構造を進める観点から、中高6年間の学校生活の中で、計画的・継続的な教育課程を展開することにより、生徒の個性や創造性を伸ばすことを目的として、1998年に学校教育法等が改正され、1999年度から、公立でも中高一貫教育制度を選択的に導入することが可能となっています。

中高一貫教育の実施形態

生徒や保護者のニーズ等に応じて、設置者が適切に対応できるよう、実施形態が3つに分かれています。各都道府県別 公立併設型・中等教育学校の設置状況(2021年度学校基本調査)をみると、公立の併設型中高一貫教育校は38都府県で、中等教育学校は16都府県で、それぞれ設置されています。全体として、41都道府県の公立学校で中高一貫教育が導入されています。

政令指定都市が、先進的な教育を実践する為の公立中高一貫校の設置状況(2022年)

政令指定都市の中で公立中高一貫校がない都市は、神戸市を含め4都市のみ。

政令指定都市一覧 (20市)						
No.	都道府県	都市名	人口	面積	人口密度	公立中高一貫校の設置状況
1	神奈川県	横浜市	3,775,352	437.78	8,623.86	横浜市立南高等学校附属中学校、横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校附属中学校
2	大阪府	大阪市	2,750,835	225.33	12,208.03	咲くやこの花中学校、
3	愛知県	名古屋市	2,325,916	326.5	7,123.79	名古屋大学教育学部附属中学校
4	北海道	札幌市	1,973,329	1,121.26	1,759.92	札幌市立札幌開成中等教育学校
5	福岡県	福岡市	1,619,585	343.46	4,715.50	※なし
6	神奈川県	川崎市	1,540,340	142.96	10,774.62	川崎高等学校附属中学校
7	兵庫県	神戸市	1,517,073	557.03	2,723.50	※なし
8	京都府	京都市	1,453,956	827.83	1,756.35	京都市立西京高等学校附属中学校、京都府立洛北高等学校附属中学校
9	埼玉県	さいたま市	1,332,196	217.43	6,127.01	さいたま市立浦和中学校
10	広島県	広島市	1,196,222	906.69	1,319.33	広島中等教育学校
11	宮城県	仙台市	1,097,237	786.35	1,395.35	仙台青陵中等教育学校、宮城県立仙台二華中学校
12	千葉県	千葉市	978,021	271.76	3,598.84	千葉県立千葉中学校
13	福岡県	北九州市	931,551	491.71	1,894.51	福岡県立門司学園中学校
14	大阪府	堺市	821,598	149.83	5,483.53	※なし
15	静岡県	浜松市	786,787	1,558.06	504.98	静岡県立浜松西高等学校中等部、浜松市立佐久間中学校、浜松市立水窪中学校
16	新潟県	新潟市	784,251	726.27	1,079.83	高志中等教育学校
17	熊本県	熊本市	738,185	390.32	1,891.23	※なし
18	神奈川県	相模原市	725,924	328.91	2,207.06	相模原中等教育学校
19	岡山県	岡山市	721,922	789.95	913.88	岡山県立岡山操山中学校、岡山県立岡山操山中学校
20	静岡県	静岡市	688,625	1,411.83	487.75	静岡県立清水南高等学校中等部

1. 中等教育学校とは？

一つの学校として、一体的に中高一貫教育を行う。

【公立中等教育学校】

学校数	都道府県数	内 訳
7校	1	新潟
6校	1	東京
3校	2	茨城、愛媛
2校	3	北海道、群馬、神奈川
1校	9	宮城、埼玉、兵庫、岡山、広島、山口、徳島、福岡、宮崎
0校	31	愛知 を含め31府県

兵庫県立芦屋国際中等教育学校

2003年に全国初の国際中等教育学校として誕生した。

兵庫県立芦屋国際中等教育学校

文A 1の言語版

ページ ノート

閲覧 編集 履歴表示

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

座標: 北緯14度43分27.6秒 東経135度19分7.2秒

「兵庫県立国際高等学校」とは異なります。

兵庫県立芦屋国際中等教育学校（ひょうごけんりつあしやこくさいちゅうとうきょういっくがっこう、英語: Ashiya International Secondary School）は、**兵庫県芦屋市**にある公立中等教育学校。2003年に全国初の国際中等教育学校として誕生した。略称は**芦国**（あしこく）^[1]。

概要 [編集]

一般の中学校・高等学校にあたる前期課程・後期課程の6年間を通して、異なる言語環境や文化的背景のもとに育った生徒が、能力や適性に応じて弾力的に学ぶ中高一貫校であることを特徴に挙げている。

教育目標 [編集]

- ・言語環境や文化的背景の異なる子どもたちの相互啓蒙により、共に生きる心をはぐくみ、多文化社会に生きるにふさわしい人間形成を図る。
- ・個に応じた指導の充実により、基礎・基本を確実に身につけ、それを基に自ら学び、考え、判断し、行動する力を培う。
- ・コミュニケーション能力や異なる文化を理解・尊重する態度など豊かな国際感覚を備え、国際社会に貢献できる力を育てる。

兵庫県立芦屋国際中等教育学校



国公立の別	公立学校
設置者	 兵庫県
学区	兵庫県全域
校訓	RESPECT（尊敬） INTEGRATION（融和） CONTRIBUTION（貢献）
設立年月日	2003年
創立記念日	11月3日
共学・別学	男女共学
課程	全日制課程

2. 併設型の中学校・高校とは？

高等学校入学者選抜を行わずに、同一の設置者による中学校と高等学校を接続。

【公立併設型】

学校数	都道府県数	内 訳
8校	1	茨城 (※)
5校	3	東京、京都、和歌山
4校	5	岡山、広島、高知、福岡、佐賀
3校	12	秋田、栃木、埼玉、千葉、神奈川、長野、静岡、滋賀、大阪、長崎、熊本、沖縄
2校	5	宮城、福島、徳島、宮崎、鹿児島
1校	12	青森、岩手、山形、群馬、石川、福井、山梨、兵庫、奈良、山口、香川、大分
0校	9	北海道、新潟、富山、岐阜、 愛知 、三重、鳥取、島根、愛媛

※茨城県は、2022年度に10校となる予定。

兵庫県立大学附属中学校 → 兵庫県立大学附属高等学校

兵庫県立大学附属中学校・高等学校

文 10の言語版

ページ ノート

閲覧 編集 履歴表示

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』
(兵庫県立大学附属中学校から転送)

座標: 北緯34度55分24.2秒 東経134度26分52.9秒﻿ / ﻿北緯34.923333度 東経134.447750度﻿ / 34.923333; 134.447750

兵庫県立大学附属中学校・高等学校（ひょうごけんりつだいがくふそくちゅうがっこう・こうとうがっこう）は、播磨科学公園都市内である**兵庫県赤穂郡上郡**光都三丁目に所在し、**中高一貫教育**を提供する**兵庫県立大学の附属中学校・高等学校**。兵庫県立大学附属中学校の卒業生は入学試験なしで自動的に兵庫県立大学附属高等学校に入学する併設型**中高一貫校**^[1]。兵庫県立大学の附属学校であり、設置者は**公立大学法人兵庫県立大学**である^[2]。全県学区であるため、県内ならどの小学校又は中学校区に在住していても通学が可能となっている^[3]。略称は**県大（けんだい）**や、**附属（ふそく）**など。

特徴 [編集]

定員は高校が160名、中学校が70名(2013年度入学生までは40名)である。高校の募集人数は160から(内部進学辞退者がいる場合があるため変動する)附属中学校からの内部進学生を除いた人数になる。

兵庫県立大学に特別推薦制度があり、成績によって進学可能。

学力検査（一般入試）において、県内の公立高校で唯一傾斜配点（「数学」は1.2倍、「理科」及び「英語」は1.15倍、「国語」及び「社会」は0.75倍）されていた。2010年より推薦入試のみになり、面接と適性検査が実施される。

中学校の入試は、**適性検査**・作文・面接によって構成されている。

毎年12月には高校で**数学コンテスト**というイベントが開催され、全校生徒で数学IA、二年生と三年生の生徒で数学IIBの全員共通の問題を解く。また、毎年春に行われる文化祭の1日目には**インター・ピープルス・デイ（Inter People Day）**と呼ばれる英語科の行事も開催され、レクレーションコンテストやスピーチコンテスト、各学級と他校のALTとの交流などが行われる。このように、学習教科への関心や意欲を高める目的がある学校行事も行われている。

中学校においては毎年7月にはEnglish Speech Festivalというイベントが開催され、各学年の代表がスピーチを行う。また、毎年11月にART FESTIVALという芸術祭が開催される。合唱や劇、文化部による発表や有志発表などが行われる。

高校では**私服**の許可、**昼休み**と**放課後**のみではあるが**携帯電話**の使用許可、また中学校でも通学時の**携帯電話**の所持が許可されているなど、自由な校風である。

**兵庫県立大学附属中学校
兵庫県立大学附属高等学校**



過去の名称	兵庫県立姫路工業大学附属高等学校
国公立別の別	公立学校（県立）
設置者	公立大学法人兵庫県立大学
学区	全県学区
校訓	創造
設立年月日	1994年4月1日（高等学校） 2007年1月1日（中学校）
創立記念日	6月29日
共学・別学	男女共学
中高一貫教育	併設型
課程	全日制課程
単位制・学年制	学年制
設置学科	総合科学科
学期	2学期制
高校コード	28275J
所在地	〒678-1205
	中学：兵庫県赤穂郡上郡光都三丁目11番2号 高校：兵庫県赤穂郡上郡光都三丁目11番1号 黎明寮：兵庫県たつの市新宮町光都三丁目26番1号



3. 連携型の中学校・高校とは？

市町村立中学校と県立高校など、異なる設置者間でも実施可能な形態で、中学校と高校が、教育課程の編成や教員・生徒間交流等の連携を深める形で中高一貫教育を実施。

【公立併設型＋公立中等教育学校】

学校数	都道府県数	内 訳
11校	2	茨城（※）、東京
7校	1	新潟
5校	6	神奈川、京都、和歌山、岡山、広島、福岡
4校	3	埼玉、高知、佐賀
3校	15	宮城、秋田、栃木、群馬、千葉、長野、静岡、滋賀、大阪、徳島、愛媛、長崎、熊本、宮崎、沖縄
2校	5	北海道、福島、兵庫、山口、鹿児島
1校	9	青森、岩手、山形、石川、福井、山梨、奈良、香川、大分
0校	6	富山、岐阜、 愛知 、三重、鳥取、島根

※茨城県は、2022年度に13校となる予定。

宍粟市立千種中学校→千種高等学校

宍粟市立千種中学校

🗨️ 言語を追加

ページ ノート

出典: フリー百科事典『ウィキペディア(Wikipedia)』

閲覧 編集 履歴表示
座標: 北緯35度9分35.7秒 東経134度26分57.8秒

宍粟市立千種中学校(しろうしりつ ちくさちゅうがっこう)は、**兵庫県宍粟市**千種町河呂に所在する公立中学校。

愛称は「千中」(ちちゅう)。

沿革 [編集]

- 1947年4月 - 学校教育法施行に伴い、千種村立千種中学校設置許可。千種村立千種南小学校^[2]に併設の上開校。5月22日を創立記念日とする
- 1948年1月 - 校章制定
- 1950年2月 - 独立校舎完成
- 1953年2月 - 校歌制定
- 1960年 - 千種村が千種町となったことに伴い、千種町立千種中学校に改称。
- 2005年 - 千種町が合併により宍粟市となったことに伴い、宍粟市立千種中学校に改称。
- 2006年 - 宍粟市より「幼・小・中の連携に関する調査研究」指定校となる。幼・小・中11年間を見通した教育活動の充実を目指す。
- 2010年 - 兵庫県教育委員会と宍粟市教育委員会とが、**兵庫県立千種高等学校**との連携型中高一貫教育実施の協定を結ぶ。

交通アクセス [編集]

- 中国自動車道山崎ICから車で約40分。
- 神姫バス山崎待合所より千種・西河内方面行きバスに乗車、「千種」又は「大森前」バス停車、徒歩10分。

宍粟市立千種中学校



過去の名称 千種村立千種中学校
→千種町立千種中学校

国公私立 公立学校

設置者 宍粟市

校訓 仲よく、強く、正しく

設立年月日 1947年4月

創立記念日 5月22日

共学・別学 男女共学

中高一貫教育 兵庫県立千種高等学校(連携型)^[1]

学期 3学期制

所在地 〒671-3231
兵庫県宍粟市千種町河呂60番地5



兵庫県立千種高等学校

🗺️ 言語を追加

ページ ノート

出典: フリー百科事典『ウィキペディア(Wikipedia)』

閲覧 編集 履歴表示
座標: 北緯35度9分26.1秒 東経134度26分46秒﻿ / ﻿北緯35.154472度 東経134.446111度﻿ / 35.154472; 134.446111

兵庫県立千種高等学校(ひょうごけんりつ ちくさ こうとうがっこう)は、**兵庫県宍粟市**にある**県立高等学校**である。

概要 [編集]

かつては西播磨学区に属していたが、**2010年度**(平成22年度)の入学より県下全域から出願可能となっている^[1]。

現在は定員1学年1学級(40名)の、山間部にある小規模校である。近年は定員割れが続き存続が危ぶまれてきたことから、その対策として特色を打ち出すため、兵庫県教育委員会と宍粟市教育委員会とが**2010年**4月から**宍粟市立千種中学校**との連携型**中高一貫教育**を、県内で初めて実施することとなった^[2]。授業や学校行事で連携するほか、千種中の3年生は一般入試に先立って本校の推薦入試を受験することができる。募集定員は推薦入試75%、一般入試25%の割合で選抜される。

沿革 [編集]


山崎高等学校千種分校 [編集]

- 1948年(昭和23年) 兵庫県立山崎高等学校定時制課程の分校として開校。
- 1962年(昭和37年) 全日制に移行。


千種高等学校 [編集]

- 1975年(昭和50年) 兵庫県立千種高等学校として独立。
- 2001年(平成13年) 文部科学省「研究開発学校」指定。
- 2005年(平成17年) 文部科学省「コミュニティ・スクール調査研究校」指定。
- 2007年(平成19年) 「県立高等学校小規模校活性化支援事業」指定。
- 2010年(平成22年) 宍粟市立千種中学校との「連携型中高一貫教育校」に改編。
- 2017年(平成29年) 県下の公立高校として初となる、**学校給食**の実施(千種小・中と共通のセンター方式)。

兵庫県立千種高等学校



過去の名称	兵庫県立山崎高等学校千種分校
国公立の別	公立学校
設置者	兵庫県
学区	全県学区
校訓	自立・信愛
設立年月日	1948年(昭和23年)
創立記念日	1月14日
共学・別学	男女共学
中高一貫教育	連携型
課程	全日制課程
単位制・学年制	学年制
設置学科	普通科
学科内専門コース	チャレンジコース ベーシックコース アクティブコース
学期	3学期制
高校コード	28187F
所在地	〒671-3201 兵庫県宍粟市千種町千草727-2



丹波市立青垣中学校→氷上西高等学校 丹波市立氷上中学校→氷上西高等学校

丹波市立氷上中学校

🗺️ 言語を追加

ページ ノート

出典: フリー百科事典『ウィキペディア(Wikipedia)』

閲覧 編集 履歴表示
座標: 北緯35度10分33.4秒 東経135度2分11.3秒﻿ / ﻿北緯35.176222度 東経135.036361度﻿ / 35.176222; 135.036361

丹波市立氷上中学校(たんばしりつ ひかみちゅうがっこう)は、**兵庫県丹波市氷上町成松**にある公立中学校。

沿革 [編集]

- 2018年(平成30年) - 丹波市体力アップ事業指定校(武庫川女子大学との連携事業)
- 氷上西高校と連携型中高一貫校

校歌 [編集]

丹波市立氷上中学校 校歌

- 作詞:井上 実
- 作曲:森 清

校区 [編集]

- 丹波市立中央小学校
- 丹波市立東小学校
- 丹波市立西小学校
- 丹波市立南小学校
- 丹波市立北小学校

交通アクセス [編集]

JR石生駅から神姫バス乗車、「丹波市役所前」バス停下車

丹波市立氷上中学校



過去の名称	氷上町立氷上中学校
国公立	公立学校
設置者	丹波市
校訓	自主・責任・思いやり
設立年月日	1961年10月7日
創立記念日	10月7日
共学・別学	男女共学
学期	3学期制
中学校コード	280308
所在地	〒669-3601 兵庫県丹波市氷上町成松103番地



丹波市立青垣中学校

🗨️ 言語を追加

ページ ノート

出典: フリー百科事典『ウィキペディア(Wikipedia)』

閲覧 編集 履歴表示
座標: 北緯35度14分50.8秒 東経134度59分32.3秒

丹波市立青垣中学校(たんばしりつ あおがきちゅうがっこう)は、兵庫県丹波市青垣町小倉にある公立中学校。

沿革 [編集]

- 1961年(昭和36年)4月 - 青垣町立青垣中学校創立。
- 2004年(平成16年)11月 - 氷上郡の合併により、丹波市立青垣中学校となる。
- 2014年(平成24年)4月 - 兵庫県立氷上西高等学校との連携型中高一貫教育を開始^[1]

校区 [編集]

- 丹波市立青垣小学校

校区が隣接している学校 [編集]

- 丹波市立市島中学校
- 丹波市立氷上中学校
- 多可町立加美中学校
- 朝来市立生野中学校
- 朝来市立梁瀬中学校
- 京都府福知山市立夜久野中学校
- 京都府福知山市立成和中学校

丹波市立青垣中学校



過去の名称	青垣町立青垣中学校
国公立別	公立学校
設置者	 丹波市
設立年月日	1961年4月
共学・別学	男女共学
中高一貫教育	連携型
学期	3学期制
所在地	〒669-3812 兵庫県丹波市青垣町小倉365-1



兵庫県立氷上西高等学校

🗨️ 言語を追加

ページ ノート

出典: フリー百科事典『ウィキペディア(Wikipedia)』

閲覧 編集 履歴表示
座標: 北緯35度14分47.6秒 東経135度0分15.8秒

兵庫県立氷上西高等学校(ひょうごけんりつ ひかみにしこうとうがっこう)は、兵庫県丹波市にある公立高等学校。

概要 [編集]

現在は定員1学年1学級(40名)の、山間部にある小規模校である。近年は定員割れが続いたため存廃が検討された結果、「丹波に根ざし 明日の丹波を担う生徒を育成する」との理念のもと、丹波市立青垣中学校・丹波市立氷上中学校との連携型中高一貫教育を平成24年度から導入することになった^[1]。一般入試は県下全域から出願可能で、それに先立って青垣中・氷上中の生徒を対象とする推薦入試が行われる。募集定員の割合は推薦入試75%、一般入試25%である。

沿革 [編集]

- 1948年 - 兵庫県立柏原高等学校佐治分校として開校。
- 1962年 - 青垣分校と改称。
- 1976年 - 独立し現校名となる。
- 2011年 - NIE(新聞活用学習)実践指定校となる。
- 2012年 - 連携型中高一貫教育校となる。

学科 [編集]

- 全日制普通科

著名な出身者 [編集]

- 橋本亮馬(元野球選手)

兵庫県立氷上西高等学校



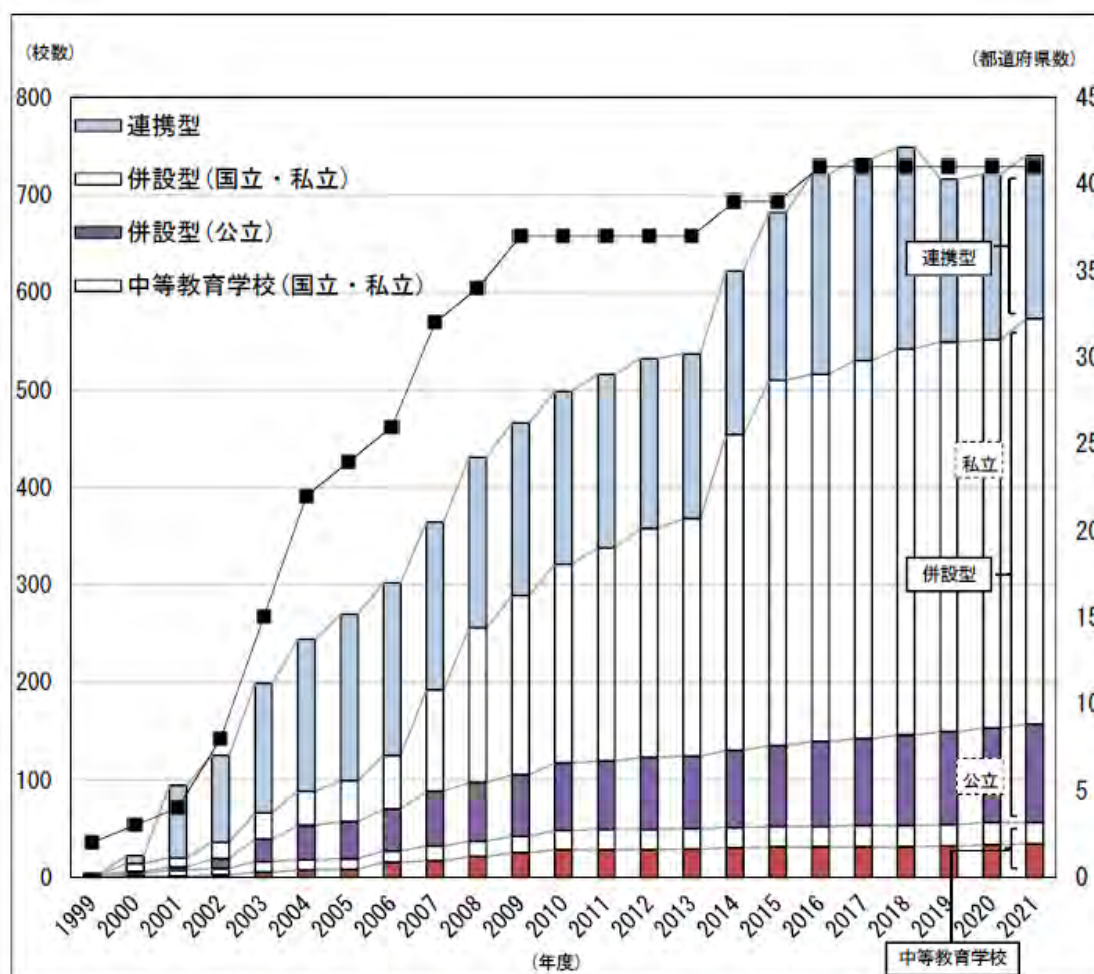
過去の名称	兵庫県立柏原高等学校佐治分校 兵庫県立柏原高等学校青垣分校
国公立の別	公立学校
設置者	 兵庫県
学区	全県学区
校訓	自主 互譲 責任
設立年月日	1948年
創立記念日	6月18日
共学・別学	男女共学
中高一貫教育	連携型
課程	全日制課程
単位制・学年制	学年制
設置学科	普通科
学期	3学期制
高校コード	28146J
所在地	〒669-3811

全国における中高一貫教育校の設置状況

実施形態別 設置校数の推移(各年度学校基本調査)

併設型を中心に、設置校数が増加傾向。

区 分		1999 年度	2005 年度	2010 年度	2015 年度	2021 年度
併設型	公 立	1	38	69	83	101
	国立・私立	1	42	204	375	416
	小 計	2	80	273	458	517
中等教育学 校	公 立	1	8	28	31	34
	国立・私立	0	11	20	21	22
	小 計	1	19	48	52	56
連携型	国公私立	1	171	177	172	167
合 計		4	270	498	682	740
併設型・中等教育学校 設置都道府県(公立)		2	24	37	39	41



◎適性検査とは、知識を問わない入試

(文部科学省資料より)

公立中高一貫教育校も税金によって運営されている学校であればこそ、一部の国民だけに恩恵を与え優遇するような制度は極力排除しなければならないことは当然であり、少なくとも学校選択の機会を実質的に平等に与えられていなければなりません。しかし、学校選択の入り口において、学力検査という新たな負担を課して子どもたちの入り口規制を行えば、公立中高一貫教育校に学ぶ子どもたちと一般の公立中学校に学ぶ子どもたちとの間で、学習環境の面でも、また、優越感や劣等感などの意識や意欲の面でも深刻な格差を生じ、それを後々まで引きずることになります。

その意味で、公立中高一貫教育校の入学選抜において「学力検査を行わない」としたことは、制度創設の趣旨を象徴的に示したものと考えます。もちろん、公立の中高一貫教育であれば、公立学校という立場を十分に踏まえてそれぞれの学校は設置されたはずであり、学校の成り立ちや費用負担の面で全く異なる私立中高の学校運営やカリキュラムだけを安易に模倣し追随するようなことがあるとすれば、それは自らの存在意義や担うべき役割を否定するだけでなく、多くの納税者や国民の理解は得られないと認識すべきです。

◎首都圏では150校以上の私立中学校でも適性検査型入試や知識を問わない思考力入試を実施

公立中高一貫校の入学選抜と出題傾向が似ている「適性検査型入試」や「思考力入試」が、約 150 校もの私立中学校で行われています。公立中高一貫校の入学選抜は高倍率になりますので、私立中学校を併願校として検討するご家庭も増えています。

「適性検査型入試」や「思考力入試」を実施しているほとんどの私立中学校が、公立中高一貫校とは別日程で試験を実施しています。

2022 年に「適性検査型入試」や「思考力入試」が行われた私立中学校には、次頁に示したような学校があります。自己アピール入試やプログラミング入試などの新タイプ入試も増加傾向ですので、4科目(国・算・理・社)の受験勉強期間が短い生徒にとっても、数年前と比べても門戸が大きく開かれてきているのが、最近の中学入試の状況です。スポーツや習い事を一生懸命やっているお子様は、集中力や粘り強さもあるため、短

公立中高一貫校の入試は適性検査

教科型(4科・2科)入試

適性検査型(非教科型)入試

2024年度以降の大学入試

期間で学力も大きく伸びる可能性が充分あります。適性検査は、知識を問わない入試なので、従来の中学受験の勉強をしていなかった子供たちにとっても進路選択の機会が広がっています。

都道府県	学校名	都道府県	学校名	都道府県	学校名
東京	足立学園 京華 佼成学園 聖学院 東京都市大学付属 日本学園 明法	東京	かえつ有明 共栄学園 国立音楽大学附属 工学院大学附属 駒込 桜丘 サレジオン国際学園 実践学園 品川翔英 芝浦工業大学附属 自由学園 修徳 淑徳巣鴨 順天 城西大学附属城西 聖徳学園 成立学園 多摩大学附属聖ヶ丘 千代田国際 帝京 帝京八王子 貞静学園 東京都立大学等々力 東京立正 東邦音楽大学附属東邦 東洋大学京北 ドルトン東京学園 新渡戸文化 日本工業大学駒場 八王子学園八王子 八王子実践 文化学園大学杉並 宝仙学園・理数インター 武蔵野 武蔵野大学 武蔵野東 明治大学付属中野八王子 明星 目黒学院 目黒日本大学 目白研心 八雲学園 安田学園 立正大学付属立正	神奈川県	鎌倉女子大学 函嶺白百合学園 北鎌倉女子学園 相模女子大学 聖セシリア女子 清泉女学院 聖和学院 捜真女学校 聖園女学院
	跡見学園 大妻多摩 大妻中野 川村 神田女学園 北豊島 共立女子 共立女子第二 京華女子 光塩女子学院 佼成学園女子 駒沢学園女子 実践女子学園 品川女子学院 十文字 淑徳S.C. 女子聖学院 女子美術大学付属 白梅学園清修 聖ドミニコ学園 瀧野川女子学園 玉川聖学院 東京家政学院 東京家政大学附属女子 東京純心女子 東京女子学院 東京女子学園(2023年度より共学化、芝国際学園) 桐朋女子 トキワ松学園 中村 日本体育大学桜華 日本大学豊山女子 富士見丘 藤村女子 文京学院大学女子 目黒聖美学園(2023年度より共学化、サレジオン国際世田谷) 山崎学園 和洋九段女子		関東学院六浦 自修館 湘南学園 聖ヨゼフ学園 橘学苑 鶴見大学附属 桐蔭学園 日本大学 横須賀学院 横浜翠陵 横浜創英 横浜隼人 横浜富士見丘学園		
	郁文館 上野学園 頤明館 桜美林 開智日本橋学園		和洋国府台女子 光英 VERITAS 芝浦工業大学柏 秀明八千代 昭和学院 千葉明德 二松学舎大学附属柏 日出国園		埼玉
			茨城		江戸川学園取手 常総学院 清真学園 土浦日本大学 東洋大学附属牛久 水戸英宏 茗溪学園
			愛知		海陽中等教育学校
			静岡		静岡聖光学院

◎適性検査の出題例について

適性検査は、公立中高一貫教育校においては「学力検査を行わない」入学者選抜として、新たに研究・開発された評価方法です。

株式会社首都圏中学模試センター(以下、首都圏模試センター)が開発した思考コードという評価軸で適性検査を見てみると「知識」ではなく「論理的思考」と「創造的思考」から出題されていることがわかります。

変換 操作	全体 関係	変容 3	A3	B3	C3
複雑 操作	カテゴリー	複雑 2	A2	B2	C2
手順 操作	単純 関係	単純 1	A1	B1	C1
(数)	(言語)		A 知識・理解思考 知識・理解	B 論理的思考 応用・論理	C 創造的思考 批判・創造

現在進められている大学入試改革では、従来の「大学入試センター試験」とは傾向が大きく異なる、共通テストが2021年1月にはじめて実施されました。

そこでは多くの資料からの的確に情報を読み取る力や、資料の内容をそれまでの学習と結びつけて考える力が問われるなど、それまでおこなわれていた大学入試のあり方とは大きく異なっていました。教科書で学習した知識や考え方をそのままのかたちで問うのではなく、問題文や資料と結びつけ、より深く考察するのが共通テストの特徴です。

公立中高一貫校で、行われている適性検査を首都圏模試センターが5つのタイプに分類した表を見てみると、大学の新しい入試選抜の共通テストの評価軸と共通していることがわかります。

適性検査 A	複数の文章を読み取る力や自分の意見を表現する力をみる問題 (読解+作文 440 字)
適性検査 B	図、資料を読み取る力、読み取った情報を考察し、課題を総合的に解決する力をみる問題 (総合・算理社)
適性検査 C	複数のデータを客観的に分析し、数的処理を通じて論理的に考察する力をみる問題 (総合・算理)
適性検査 D	資料や文章などを読み取る力や自分の意見を表現する力をみる問題 (読解+作文 350 字、総合・社)
適性検査 E	日常の経験や学習を通じて身につけたことを活用し、的確に判断する力や結論を導き出す力をみる問題 (総合・生活)

極端な例ですが、例えば、従来の入試と適性検査の出題例を比較してみると今までの入試問題と評価軸が大きく違うことが確認できます。

◆従来の入試の出題例

「日本にキリスト教が伝わったのは室町時代です。何年に、誰が伝えたのか答えなさい。」

◆適性検査の出題例(私立・東京)

共立女子第二中学校 適性検査型入試 大問3 問題3

(1)もし、私たちの住む世界から摩擦がなくなったとしたら、氷や雪の上ですべること以外にどのようなことが起きると考えられますか。解答らんの枠内に「摩擦のない世界」というタイトルの絵を描きなさい。

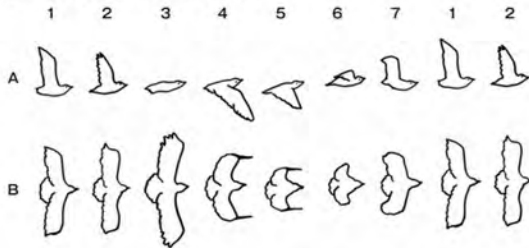
(2)あなたの描いた絵の状況を、なぜそうなるのか理由と共に文章で説明しなさい。

【適性検査出題例】

1 なぎさんとりくさんは紙飛行機で遊んでいます。

- な ぎ：紙飛行機は形を変えると、飛び方がいろいろ変わるね。
- り く：生き物にも飛ぶことのできる生き物がいるよね。
- な ぎ：鳥や虫がそうだね。どうやって飛んでいるのかな。
- り く：カモメを観察してみよう。つばさを上下に動かしているね。
- な ぎ：ただつばさを上下に動かしているだけではなさそうだよ。
- り く：カモメの飛び方をビデオでさつえいして、ゆっくり再生して見てみよう。
- な ぎ：つばさを大きく広げたり、つばさを小さく折りたたんだりして、つばさの形を変えているね。なぜだろう。

図1 カモメが飛ぶときのつばさの動かし方



※Aはカモメを横側から、Bはカモメを背中側から見た姿を図で表したもので、つばさを動かす順番に並べています。AとBの縦に並ぶ図は、同じ瞬間のカモメの姿の図です。
(東昭「生物の動きの事典」より作成)

〔問題1〕 図1から、カモメが飛ぶときには、つばさを大きく広げたり、小さく折りたたんだりする様子が分かります。つばさを大きく広げるのはどのようなときですか。その理由についてあなたの考えを説明しなさい。

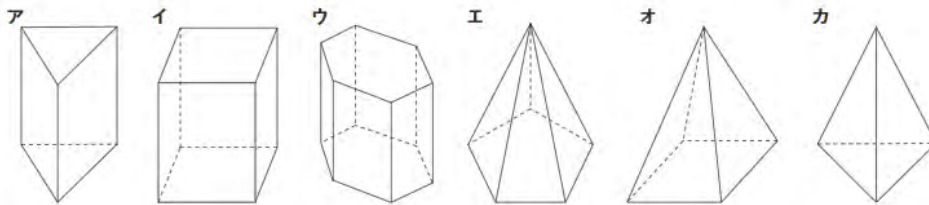
なぎさんとりくさんはチョウの飛び姿を見るために、動物園内のチョウが見られる場所に来ています。

- な ぎ：種類によって飛び方がちがうね。
- り く：この大きなチョウはオオゴマダラといって、日本で最も大きいはねをもつチョウの一種だよ。こちらの少し小さいのはイシガケチョウだね。
- な ぎ：オオゴマダラは、はねを広げるときに全体のはねが12cmくらいだね。イシガケチョウは7cmくらいだね。
- り く：オオゴマダラとイシガケチョウでは飛び方がちがうね。カメラを固定して飛び方をさつえいしてみよう。
- な ぎ：家に帰って、飛んでいるときの様子を調べられるね。
- り く：だいたいいつも同じような飛び方をしているね。何度かさつえいしたものの中から、チョウが約1.5mおおよそ横向きに動いているものを選んでゆっくり再生しながら、それぞれのチョウが飛んだところを線でなぞってみよう。図2のグラフの縦方向は高さ、横方向はチョウが横に移動したきよりを表しているよ。
- な ぎ：点は0.25秒ごとにチョウがいた場所を表しているね。
- り く：点の間かくをよく見るとちがいがああるね。

(適性検査出題例)

【適性検査出題例】

2 次のア～カのような形の積み木があります。



みきさん、らんさん、すずこさんの3人は、この積み木を使って「積み木あてゲーム」をしています。

「積み木あてゲーム」とは、1人がア～カのうちのどれか1つの積み木についての特ちょうを説明して、ほかの2人が、どの積み木のことを説明しているのかをあてるゲームです。

らん：「わたしから問題を出すわね。その積み木には、^{ちほくてん}頂点が5個あるわ。」

みき：「はい！ わかったわ。その積み木は ね。」

らん：「正解よ！」

問1 にあてはまる積み木は何ですか。ア～カから1つ選び、記号で答えなさい。

みき：「次はわたしが問題を出すわね。えっと、その積み木には、頂点が6個あるわよ。」

すずこ：「頂点が6個ある積み木ね。あれ、頂点が6個ある積み木は2つあるわ。」

らん：「そうね、2つあるわね。 と のどちらだろう？ ねえ、ほかにもヒントをちょうだい。」

みき：「ほかには…。その積み木には、面が5つあるわ。」

すずこ：「わかったわ！ 答えは ね！」

みき：「正解で一す。」

問2 と にあてはまる積み木は何ですか。ア～カから1ずつ選び、記号で答えなさい。

すずこ：「じゃあ、今度はわたしが問題を出すわ。その積み木には、三角形の面があるわ。」

らん：「面の形は、三角形だけ？ それとも、ほかの形もあるの？」

すずこ：「ほかの形もあるわ。」

みき：「ということは、考えられる積み木は、 ね。」

らん：「そうね。」

問3 にあてはまる積み木はいくつ考えられます。ア～カからすべて選び、記号で答えなさい。

【5. 中高 6 年間一貫教育の魅力と特質とは？】

1. 調査の目的
2. Part.1 の振り返り
3. 教育先進都市・神戸としてふさわしい教育とは？
4. 中高一貫校とは？
5. 中高 6 年間一貫教育の魅力と特質とは？
6. 公立中高一貫教育校を立ち上げるために考える大事なこと

この章では、今までの中学校での3年間と高等学校での3年間に対して、中高一貫校6年間のメリットとデメリットをあげて、その魅力と特質を明らかにしたいと思います。

① 中高が一貫した継続性と時間的ゆとりを生かした教育活動

⇒ 中高6年間の継続性と、高校受験にとらわれずにすむ時間的なゆとりを生かして各教科を深く学び、部活動にも思い切り打ち込むことができる(とくに中学校)。

⇒ とくに中学時代に、理科実験や体験学習など将来のための多様な経験に時間を費やすことができる。

⇒ 中学生の段階から、将来の職業選択(自己実現や社会貢献を含めた)も含めたキャリア教育や、ライフデザイン教育を行うことができる。

② 幅広い年齢層にまたがる多様で親密な人間関係

⇒ 同級生や近い年齢の先輩・後輩だけでなく、自分を中心に上下 5 学年にわたる幅広い人間(先輩・後輩)関係を築くことができる。

⇒ 縦割りで競い合う行事(体育祭など)や生徒会などでリーダーシップを取る先輩の姿を見て、自身の目標やロールモデルにすることができる。

⇒ 様々な専門性や個性を持つ先生との触れ合いによって、学問的・人間的な刺激を受けることができる。

③一貫した理念・方針のもとで行われる「大学進学準備教育」

⇒大学受験・進学までを見通すことのできる教員が中学入学時から高校卒業時までの6年間の教育内容を組み立て、工夫することができる。

⇒高等教育(大学や大学院)での学問・研究につながる基礎学力や、さらには社会に出たときに求められる力を育てるための教育プログラムを中学時から導入することができる。

④中高の連続したカリキュラムの工夫

⇒中学と高校それぞれの「学習指導要領」に基づく検定教科書には、もともとかなりの割合で重複する内容があるといわれる。それを効率的・有機的に整理・再編した独自のカリキュラムを組み立てることができる。

⇒教科の融合や、他教科でも関連性のある事柄を同時に学ぶことで、より深く広範に生徒の理解や知識の定着を促すことができる。

⑤多感な13歳～18歳の成長期における継続した教員の指導やサポート

⇒共通の理念や教育方針のもと、教員が6年間担任持ち上がりや複数担任制など各校の工夫のもとで、生徒の学力的・人間的な成長をじっくりと見守り育てていくことができる。

⇒(私学では原則として)転勤のない教員が、中高6年間はもとより卒業後も在職していただけることで、大学や社会に巣立ってから、母校を訪ねれば相談に乗ってもらったり、アドバイスを受けることができる。

⇒中高が連続していることで生まれる「中だるみ」の時期も、多感な年代にさまざまなことに悩み考え、成長するための貴重なインターバルの時期として大らかに見守ってもらえる。

⑥独自の入試選抜による入学者からの理解・賛同を得ての自由な教育展開

⇒中高6年間の教育姿勢やカリキュラムを反映した“学校の顔”として、独自の個性的な入試問題や入試形態を工夫することができる。

⇒独自の理念・教育姿勢に賛同する家庭の受験生が集うことで、合格～入学した生徒と保護者から、在学中の教育展開や工夫に賛同・協力してもらうことができる。

⇒独自のアドミッション・ポリシーに基づく出題や入試形態で受験者の資質や学力を試すことで、「こういう力を持った子どもに入学してほしい」という学校側の想いと「こういう教育(入試)を行う中高一貫校に進学したい」という受験生側の想いのマッチングを図ることができる。

【公立中高一貫校のデメリット】

私立校と公立中の良い部分を併せ持ったイメージのある公立中高一貫校には、長所しか無いようにみえますが、デメリットと言われている部分も紹介しておきます。

① 倍率が高く、不合格の可能性も高い

公立中高一貫校の人気は非常に高くその倍率は約5倍、首都圏の人気校では6~7倍となることも珍しくありません。公立中高一貫校は1人1校しか受検することができないため、厳しい選抜となる覚悟が必要となります。

首都圏における公立中高一貫校の受検者

2021年入試/公立中高一貫校の入試(適性検査)状況《※一部推定》

●志願者	18,852名 (△ 645名)
●受検者	18,207名 (△ 605名)
●合格者	3,840名 (△ 440名)
●不合格者	14,367名 (△ 165名)

②志望校の選択肢が限られる

東京都の場合、都内の私立中学が約180校あるのに対し、公立中高一貫校は11校しかありません(神奈川県は5校、千葉県は3校、埼玉県は3校。2021年現在)。学校の数が少ないため、通学時間などを考慮すると志望校の選択肢が限られるという側面があります。

③中だるみの心配がある

公立中高一貫校では高校受験がないため緊張感が薄れ、中には学習へのモチベーションを維持できない生徒も出てくる可能性があります。

そのため学校によっては、中だるみを防ぐために校外模試を受けさせたり、中学卒業時に卒業論文を課したり、海外研修するなど、中だるみの期間を有意義に過ごせるための対策を講じている。

以上、メリットとデメリットを取り上げましたが、中高一貫校では学校ごとの独自の取り組みや、中学3年間で高校3年間の分断された学校体験ではできなかった6年間という連続性を生かした教育により、公立学校ではこれまでになかった学校教育が可能となっています。

【6. 公立中高一貫教育校を立ち上げるために考える大事なこと】

1. 調査の目的
2. Part.1 の振り返り
3. 教育先進都市・神戸としてふさわしい教育とは？
4. 中高一貫校とは？
5. 中高 6 年間一貫教育の魅力と特質とは？
6. 公立中高一貫教育校を立ち上げるために考える大事なこと

この章では、すでに東京都の公立中高一貫校に携わった経験のある石坂康倫先生に公立中高一貫教育校を立ち上げるために考える大事なことをテーマにインタビューを行った。

すでに設立されている中高一貫校の例もあげながらご紹介していきます。

東洋大学参与 石坂康倫 先生

元日比谷高校校長 元都立桜修館校長(公立中高一貫校)

1 点目として立ち上げ理由を明確にすることが大事。

兵庫県の場合には県民にとっての要望が高いこと、神戸市の場合には市民の要望が高いことが調査などによって明らかにさせることだと思います。

(愛知県の場合)

「愛知県 中高一貫教育導入方針(案)」に対する意見募集について下記の通りアンケートを行った。

●以下アンケートの内容です。

・意見募集期間

2022年11月28日(月曜日)から2022年12月27日(火曜日)まで(必着)

・意見の提出方法

『愛知県 中高一貫教育導入方針(案)』に対する意見(様式)に、お住まいの市町村名、年齢、職業を御記入の上、郵便、FAX又はメールにより、「2(7) 問合せ先」へ御提出ください。

なお、郵便により御提出いただく場合は封筒に、メールによる場合は件名に、それぞれ「愛知県 中高一貫教育導入方針(案)に対する意見」と明記してください。

※電話での御意見については、対応できませんので御了承ください。

(アンケートの書式)

(別添様式)

「愛知県 中高一貫教育導入方針（案）」に対する意見

お住まいの市町村名	年 齢	職 業

(福島県の場合)

福島県では震災復興のシンボルとして復興ビジョンの検討と同時並行で、「双葉郡子供未来会議」を実施。子供たちの考える双葉郡の教育を考え、新しく開校する公立中高一貫校にそこで話し合われた内容が取り入れられました。

双葉郡子供未来会議(web ページより)

福島県双葉郡教育復興ビジョン推進協議会では、双葉郡のすべての子供と大人が県内外から集まり、双葉郡の教育復興について考え対話する場として、「双葉郡子供未来会議」を開いてきました。会議と言っても堅苦しくなく、自由で楽しい雰囲気です。いくつかのグループに分かれ、子供と大人(保護者・先生・教育長など)と一緒にテーブルを囲んで双葉郡のこれからの教育や理想の学校をテーマに話し合い、お互いの言葉を大きな 1 枚の紙に書き留めていきます。最後にグループごとに発表を行って意見交換を行います。子供たちの声・皆さんの声、新しい教育づくり・地域づくりに生かされます。子供会議は今後も開催していきます。ぜひ一緒に、未来を考えましょう。

【主な意見】

さらに深めて議論するテーマとして子供たちや保護者から5のテーマの提案が出された。(「地域の人たちとみんなで作る学校」「義務教育の内容とあり方」「アクション」「学科やカリキュラムを専門外から考える」「様々な経験・価値観・多様性にふれる」)その後、主に下記のような議論が行われた。

(1) 地域の人たちとみんなで作る学校

今の学校は主に生徒と先生の関係だけである。それだけではなく、地域という場所に足を運んで地域の人のお話を聞くことで学べることもあるうえ、地域で孤独になる人がいなくなるのではない。震災後、学校・家庭・地域のバランスが崩れてしまった。地域に人が戻ってくるためには何をしなくてはいけないのか考えたい。

今、地域のバランスが崩れてしまって、地域を活性化するために、一人だと自分の考えだけが正しいと思ってしまうので、みんなで集まっているような意見を集めていき考えていくことで、未来が作られていく。

(2) 義務教育の内容とあり方

先生が教えるだけの一方的な教育ではなく、生徒同士で教え合うような生徒が主体となった授業であれば、生徒自身が考えて決めていくことで成長することができるのではない。応用クラスや基礎クラスに分けることは優劣の差ではなく、得意不得意を見極めて互いに教え合い支え合うことで、個人に合った授業が必要である。

中学校の授業のやり方について、自分から学習しようという主体的な学びの場が必要である。先生にやらされるのではなく、自分から動く授業がいい。授業をわかりやすくするのは

なく、友達同士でコミュニケーションをとりながら勉強することで理解が深まるのではないか。授業を受ける立場だけでなく、勉強は決められたことをするのではなく、のびのびした教育を受けたいが、教育現場と行政の間には、理想と現実のギャップがあることがわかった。お互いの立場を考えて、勉強していくことが大事である。

(3) アクション(新たな教育)

・アクションをするには、きっかけが大事である。多文化に触れるなど、きっかけを自分から見つけられる機会があると良い。たとえば、講演会など学校側で増やすことでいろんな職業の人が何をしているのかを聞くことで、自分は将来こうなりたいという目標を見つけるきっかけになる。また、自分から見つけることができない人へのサポートする力もつけると、多くの人との関わることができるのではないか。

・アクションでどういう教育を受けたいかを話し合った。今、DS とかタブレットを使った授業が最近あり、最先端技術を活用すれば楽しく授業を受けることができるのではないか。設備を充実させれば快適に授業を受けることができる。少人数授業であれば、一人一人の得意なところ、長所をのばすような教育を受けたい。生徒同士のつながりも濃くなるのではないか。

・授業で習うこと以外でも、将来役に立つこともたくさんある。授業では今だと自分を生かせる場があまりない。生かせる場を作るためには、それまでも基礎的な学力も必要であり、それらを学ぶためには、「このために学んでいかななくてはいけない」など必要性がわかれば自ずと、今までの授業をよりよく理解することができるのではないか。現在、復興しなくていけないという気持ちがあるため、今まで以上に学びの必要性を聞かせる場が必要である。また、多文化に触れたり、ディスカッションしたりすることを通じて社会性を養うことができるようになる。

・自分一人で考えることは小さいことであるが、アクションでは、多くの人で話し合うことで、段階的に考える、学ぶことが必要だと話し合われた。しかし、この新しい教育は最新の教育であると同時に、本来の教育にもどることでもある。アクションを起こすことはどういったことなのかを、みんなが考える意識をもち、主体的に学びたいと思い、学びを深めることができる。自分のできる範囲で広げていきたい。

(4) 学科やカリキュラムを専門外から考える

新しい中高一貫校についてはまだカリキュラムは白紙である。普通科、スポーツ科等も予定されるのではないか。世界に通じる学校になるべきである。英語とか国際的に使えるような能力を付けることが大事。今日話し合われたみんなの意見を盛り込んでほしい。

(5) 様々な経験・価値観・多様性にふれる

様々な職業の人に来てもらったり、話し合うような授業をしたりすることで、多くの価値観に触れることができる。また、海外留学を通じて異文化を知ることができ、その多様性について触れることができる。しかし、その機会にたどり着かない生徒たちも多いので、うまくその機会を利用できるきっかけを与えることが大事。そして、より継続な取組が大事なのではないか。

2 点目に、メリットが大事。

神戸市に中高一貫教育校を作ることによってどれだけのメリットがあるかということです。

(茨城県の場合)

日本の教育は 150 年前のまま一学校にメスを入れた、茨城県。

(広報文章より)

日本の学校で見る「教師が生徒へ講義形式で教える授業」は、明治時代に導入されたと言われています。DX や新たな生活様式など社会が急速に変化する中で、学校教育は 150 年以上も前から大きく変わりません。

この状況を変えたいと、茨城県教育委員会では 2019 年より学校教育の変革に乗り出しました。他県に先駆け公立校の中高一貫校化を推進し、“成長が最も大きい 6 年間”の環境整備に力を入れています。通常なら受験勉強で費やしてしまう時間を、一貫校にすることで、探究心や課題解決力を磨く時間として割けるように。授業内容なども見直し、社会に出てから本当に必要とされる人材を育てていく考えです。2022 年春に開校する学校も含めると、公立での一貫校は計 13 校と、全国の都道府県の中で 1 位。茨城県から日本の学校教育を改革するべく、新たな挑戦を続けています。

(札幌市の場合)

中等教育の対象となる 13 歳から 18 歳の期間は生徒にとって心身の成長や変化が著しい時期であり、現行の中学校3年間と高校3年間に区分する現在の制度は、中学校卒業段階で生徒が自らの能力や適性、興味・関心、進路希望等を踏まえ、主体的に高校を選択できるなど、大きな利点と意義が認められています。これに対し、中高一貫教育は、以下のような特徴のある制度です。

★ 中高一貫教育の特徴

◆ 高校入試がないことなどによる時間的余裕を活用するとともに、6年間を見通した柔軟な教育課程の編成を行うことなどが可能となる「6年間を通した学びの連続性」

◆ 現行の中学校・高校に比べ、幅広い異年齢集団が共に学習したり、様々な活動を行ったりすることが可能となる「幅広い異年齢集団による学び合い」

◆ 中学校・高校の期間を通した6年間の学校生活において、様々な体験や教育活動の中で生徒が繰り返す試行錯誤をじっくり見守り、支援することが可能となる「6年間にわたる見守り」

こうした特徴を生かすことで、これまで以上に特色を持った学習環境を提供することが可能であり、そういった環境で、より個性を伸ばし、豊かな人間性や健やかな体があぐまされていくこととなる子どもたちも想定され、私立に加え、公立の中高一貫教育校という新たな選択肢を提供することは、中等教育の多様化を推進するとともに、市立高校改革が目指す「学びの場の更なる充実」につながるものと考えます(平成 19 年に実施したアンケート調査において、約 70%の保護者が公立の中高一貫教育校に関心を示し、約 58%の保護者が入学をさせたいと回答)。加えて、中学校と高校の教員が日常的に協力して教材研究や学習指導を行うことができる中高一貫教育校が、中学校と高校の橋渡しを行い、中高一貫教育校を含めた3者が、様々な成果を共有し、互いに高めあう取組を推進することにより、校種を越えた学校間の連携を一層促進することにつながり、札幌市における中等教育の一層の充実を図っていくことができると考えられます。以上のことから、本「基本構想(案)」第2章以降に記載する内容に基づき、札幌市立の中高一貫教育校を設置することとします。なお、中高一貫教育校の設置に当たっては、少子化の進展による中学校卒業生数の減少を考慮し、新たに学校を増設するのではなく、既存の市立高校をその特色ある教育をベースに発展的に改編します。

(広島県の場合)

広島県では、「知識を活用し、他者と協働して新たな価値を生み出せるか」を重視する「学びの変革」を国公私立の枠を超えて推進中。

○この「学びの変革」を先導的に実践する広島叡智学園(仮称)を、県立の併設型中高一貫教育校として平成 31 年4月に開校予定(「教育の島づくり」を政策の第一に掲げ、海外大学の誘致など、教育を通じた地方創生の実現に取り組んでいる大崎上島町に設置)。

○この学校を核として、県内すべての学校の「学びの変革」を進めるとともに、県全体の多様性を高めることにより様々な分野におけるイノベーションを生み出し、これにより、地方創生の実現を目指す。

3 点目は、どのような学校にするかです。

例えば、

- ・神戸市や兵庫県には中高一貫教育校が他の都道府県と比べて少ない。
- ・これからの日本において有益な人材を育成する手段の一つとして、6 年間を通じての中高一貫教育を行うことは不可欠である。

(愛知県の場合)

(広報文章より)

○ 現在の社会は加速度的に変化し続けており、将来の予測が極めて難しい時代となっています。

○ このような社会や時代においては、様々な人と協働しながら、答えのない課題に対して、失敗を恐れずにチャレンジし、社会に変化を起こす「チェンジ・メーカー」になっていくことが求められています。

○ また、将来の予測が難しい時代においては、一部の人だけが「チェンジ・メーカー」となるのではなく、これからの時代を生きていく全ての人が、「チェンジ・メーカー」として、それぞれの個性や能力を発揮し、様々な場面で変化を起こすことが必要となります。

○ 本県で、今後導入する様々なタイプの中高一貫教育では、ゆとりのある計画的・継続的な教育や、地域の方々との活動を通して、一人一人異なる個性をもつ子どもたちの可能性を最大限に引き出し、伸ばす学びを進めていきます。そして、子どもたちが、将来、困難に遭遇した時、「この学校で、この仲間たちと、この先生たちと、この地域の人たちと、一緒に学んで良かった」と思えるような学校づくりを進めていきます。

4 点目は、具体的な内容です。

・学校の教育目標・目指す教育・目指す生徒像・目指す学校像は？

(横浜市立南高等学校附属中学校の場合)

◎教育目標

学びへの飽くなき探究心を持つ人材の育成

自ら考え、自ら行動する力の育成

未来を切り拓く力の育成

◎目指す学校像

国際社会で活躍するリーダーの育成を目指す学校
6年間の一貫教育で健全な心身をはぐくむ学校
質の高い学習により、高い学力を習得できる学校
生徒が互いに切磋琢磨し、常に活気に溢れている学校

◎育てたい生徒像

高い志を持ち、国際社会の発展に貢献する生徒
幅広い知識を活用して、自ら課題解決を図る生徒
自他の在り方を尊重し、健康で豊かな生活を創造する生徒
自己の生き方を探求し、自分の進路を主体的に実現する生徒

- ・いずれかの学校を改編するのか、或いは土地を取得し建物を新規に作るのか？
- ・設置するための予算は？
- ・校舎・校庭・施設設備は？
- ・学校の規模(生徒数とクラス数など)は？

(横浜市立中高一貫教育校の設置について)

設置の基本的枠組み

(1) 設置場所 横浜市立南高等学校(単位制による全日制の課程普通科)を改編し、同校(横浜市港南区東永谷 2-1-1)の敷地内に設置する。

(2) 設置形態 併設型の中高一貫教育校とする。

(3) 開校年度 平成 24 年度開校(附属中学校1年生受け入れ開始)とする。

(4) 学校規模 附属中学校 1学年4学級 160 人定員(3学年全体で 12 学級 480 人)・適性検査及び調査書等による総合的な選考を経て入学する生徒 160 人 南高等学校 1学年5学級 200 人定員(3学年全体で 15 学級 600 人)・附属中学校からの進学者 160 人・高等学校の入学選抜を経て入学する生徒 40 人

(5) 高等学校の課程、学科 全日制の課程普通科とする。

- ・開設準備に必要な教員や指導主事等の配置は？
- ・1年目から6年目までの旧職員人数とメンバーは？

(山形県立致道館中学校・高等学校の場合)

2 開校に向けた準備組織及びスケジュール						
	R2	R3	R4	R5	R6	
準備組織	開校整備委員会		開校準備委員会		開校	
検討等の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程編成(高校) ・学校行事等の検討 ・制服、部活動の決定 ・地域説明会の実施 など		<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程編成(中学) ・校名、校歌、校章の決定 ・中学校入選の実施 ・学校説明会の実施 など			
中学校校舎整備		基本設計 実施設計		改修		
高校校舎整備		基本設計 実施設計		改修・増築		体育館 改修
仮校舎			建設	運用		

48

- ・校名・校歌・校章・制服の有無(制服の場合にはその選定)は？
- (福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校の校章)



福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校

校章は、「ふたばの教育復興応援団」として御協力をいただいている、クリエイティブディレクターの佐々木宏氏と、アートディレクターの浜辺明弘氏の御提案によるものです。

中学校・高等学校の校章、という従来の概念にとらわれない「ポップで、フレッシュな」デザインであり、新しい歴史を刻んでいく本校の新鮮さ、若々しさが表現されています。

図案の中心には「未来」の2文字を据え、夢や希望が立ち上がってくるイメージを前面に表現しています。この「未来」の字面を直線で構成することにより、最先端の建築物が築かれていくようなイメージを表し、全体を「広がる空」の青色で構成しました。

「未来」の周囲を「FUTABA FUTURE SCHOOL」の文字で丸く囲み、「タンポポの綿毛」のようなイメージを表しています。タンポポの綿毛は風に乗り、世界に広がっていきます。それは、ふたば未来学園中学校・高等学校で学んだ生徒が、実りある学びの成果を世界中に届けるというメッセージへとつながっていきます。

「FUTABA FUTURE SCHOOL」の活字は「明朝体」。その字体に、「未来」を切りひらいて新しいことにチャレンジする志と、福島、日本の歴史・伝統も大切にしたい気持ちを表現しています。

「未来」の意匠の下に配されたアンダーラインは、「福島の大地」を表します。赤い色には、「情熱と活力ある福島」の願いが込められています。

これらを総合して、「福島に未来を築く学校」というメッセージを発信する校章となりました。

(山形県立致道館中学校・高等学校の制服案)

4 学校生活 (2) 制服・運動着

○制服

- ・上衣、下衣は中学校、高校で同じデザインを採用
- ・上衣…2種類
 - I 型
 - II 型 (ウエストを絞ったタイプ)
- ・下衣…3種類
 - A型 (スラックス)
 - B型 (女子体型スラックス)
 - C型 (スカート)

※上衣2種類、下衣3種類の組み合わせは自由
※ネクタイ・リボンは選択

21

4 学校生活 (2) 制服・運動着

・上衣、下衣の組み合わせ例



・ I 型+A型 ・ II 型+B型 ・ II 型+C型

22

4 学校生活 (2) 制服・運動着

・ネクタイ、リボン(選択可能)
中学校と高校で、カラーが異なる



中学校カラー
(白色・桜色のライン)

高校カラー
(黄色・緑色のライン)

23

4 学校生活 (2) 制服・運動着

○冬用運動着

- ・中学校、高校で同じデザインを採用



24

4 学校生活 (2) 制服・運動着

○夏用運動着

- ・中学校、高校で同じデザインを採用

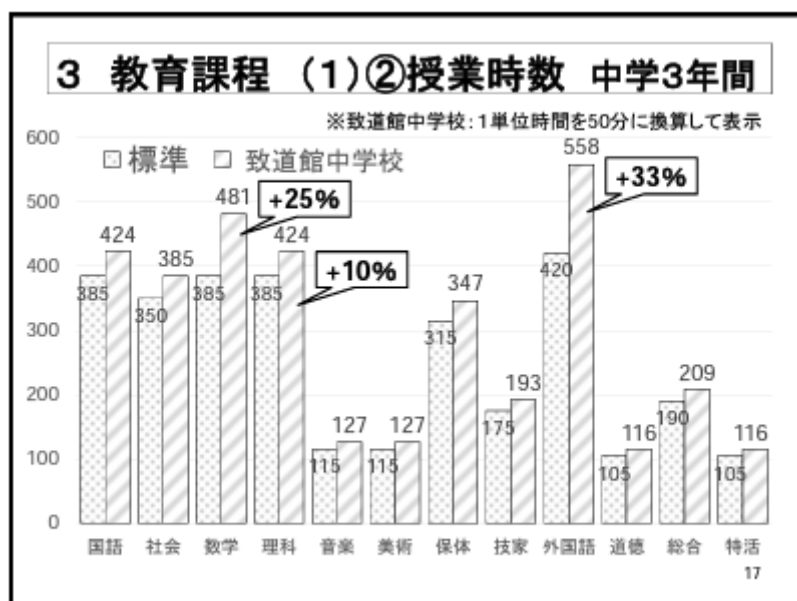
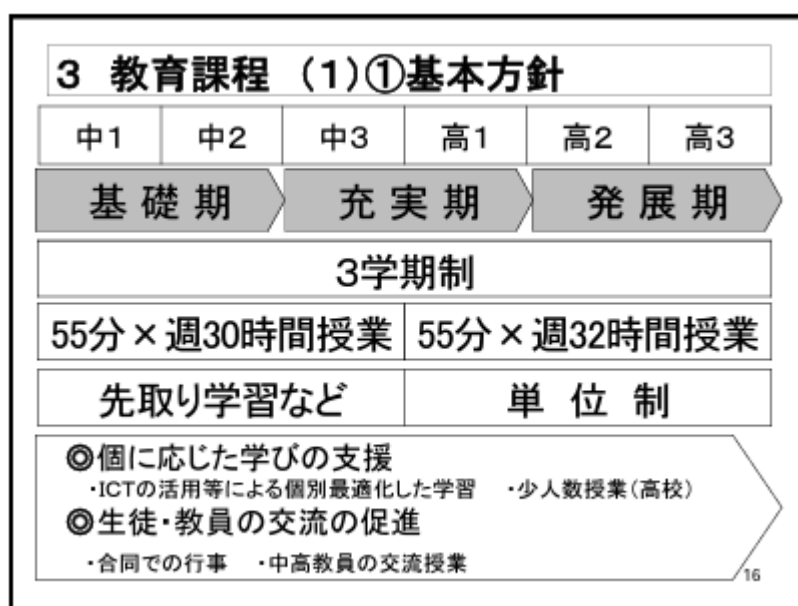


25

・カリキュラム編成(これがとても重要です)は？

・一般の中学校、高等学校とは異なり、教養教育を行い、学ぶ姿勢や高い志を持った生徒を兵庫県(神戸市)として教育委員会と学校との協力で6年間に渡り行うことで、兵庫県屈指(神戸市屈指)の人材を育成することができる。更には、神戸高校と競い合える学力を持った生徒を育成することで、東京大学や京都大学、或いは海外の大学(ハーバード大学やマサチューセッツ工科大学など)に進学する生徒たちがこれまで以上に誕生すると考えられる。

(山形県立致道館中学校・高等学校の場合)



3 教育課程 (2)教育内容の特色

- キャリア教育の充実
- 探究型学習の推進
- 理数教育の充実
- グローバル教育の充実
- 道徳教育と健康教育の充実

(福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校の場合)

特色ある4つの学び

1 実践力をみがく「未来創造学」

未来創造学ふたば未来学園のカリキュラムの特色は、総合的な学習の時間「未来創造学(中学)」及び「未来創造探究(高校)」と各教科の往還による深い学びの実現です。各教科で学んだ知識を活用し、試行錯誤しながら、現実社会での課題解決学習に取り組み、知識を実践力に高めます。

中学校では双葉地区を「私のふるさと」とし、フィールドワークを中心に地域の魅力を探究・発信しながら、未来の社会の姿や自らの生き方を考えていきます。

2 世界に飛び出す学び 最先端のカリキュラム「未来創造学」

世界に飛び出す学びふたば未来学園中学校・高等学校は、県内で唯一、文部科学省から「地域との協働による高等学校改革推進事業(グローバル型)」の指定を受け、原子力災害からの復興を果たし、新たな地域社会を創造するグローバル・リーダーの育成に取り組んでいます。中高6年間を通じて、世界で活躍するために必要な実践的な英語力と国際的な視野を育てる取組を進めています。

中学校では通常の英語の授業に加えて、「グローバル・スタディ科」で実践的な英語力を身に付けます。一般生は全員「海外研修」で現地の中学生と交流します。

3 深い学び・高い学力

グローバル・スタディ科による実践的英語力育成 海外研修での発信

深い学び・高い学力全ての強化の授業が知識を暗記するだけでなく、自分で探究し仲間と対話をしながら学ぶスタイルです。大学入試改革に対応するとともに、正解のない課題が山積みの社会で活躍できるよう、知識を活用しながら考えて表現できる高い学力を身に付けます。

中学校の国語・数学は一般の中学校より多くの授業時間を設定し、習熟度に応じた少人数学習を行います。また、高校の学習内容を一部先取りしています。

各教科でのアクティブ・ラーニングの展開

習熟度別学習

国語・数学での高い学力の育成

4 未来の主人公となる学び

未来の主人公となる学びシティズンシップ教育で、身のまわりのことも社会のことも人任せにせずに向き合い、自ら考え動くことができる能動的な市民としての主権者意識、市民性、人権感覚を育みます。

中学校では各界のリーダーから学ぶリーダー学、正解のない課題を深く考える哲学対話、コミュニケーション力を身につける演劇ワークショップなどを行い考える力や人間性をみがきます。

哲学・熟議

リーダー学

演劇・コミュニケーション

5 点目は広報活動と地域住民の理解などです。

- ・地域住民に対する説明会(目的や通学路や住民の不安解消など)
- ・地域住民に対する建設工事期間等の説明会
- ・各小学校や地域の人たちへの学校説明会
- ・担当教育委員会からの小学校への周知
- ・既設校を改編する場合には、在籍性と在校生保護者に対する説明会
- ・既設校を改編する場合には、卒業生に対する説明会
- ・教師の労働組合や校長会の調整や理解を深める活動

◎地域住民の不安を解消するための説明会を開催する際には、以下の点に配慮して進めると効果的です。

1. 詳細な情報提供

学校の設立目的、教育方針、カリキュラム、施設や設備、運営体制など、具体的で詳細な情報を提供し、不安を払拭する。

2. 地域との連携強調

地域住民との協力体制や地域貢献活動、地域の文化や伝統を取り入れた教育活動など、地域と学校がどのように連携していくかをアピールする。

3. 質疑応答の充実

十分な時間を設けて、地域住民からの質問や懸念事項に丁寧かつ具体的に回答し、理解を深める機会を提供する。

4. 専門家の意見紹介

教育専門家や関係者の意見を取り入れ、学校設立の意義や効果を客観的に説明する。

5. 成功事例やデータ提示

他地域の中高一貫校の成功事例やデータを紹介し、その効果や安心感を伝える。

6. 見学会や体験授業

学校の敷地や施設を見学できる機会を提供したり、体験授業を実施することで、具体的なイメージを持ちやすくする。

7. フォローアップ対応

説明会後も、地域住民とのコミュニケーションを維持し、継続的な情報発信や相談対応を行う。

8. 広報活動の充実

地元新聞やチラシ、SNSなどで説明会の告知を行い、多くの地域住民が参加できるようにする。また、説明会の内容を録画し、ウェブサイトやSNSで公開することで、参加できなかった住民にも情報を提供する。

◎既存の学校を中高一貫校に改変する場合、卒業生に対して理解を得られるようにするために以下の活動が効果的です。

1. 情報発信

卒業生向けのニュースレターや SNS を通じて、中高一貫校への改変の目的やメリット、計画内容などを定期的に発信する。

2. 説明会開催

卒業生向けの説明会を開催し、中高一貫校化の経緯や目的、教育内容、運営体制など具体的な情報を提供し、理解を深める。

3. アンケート調査

卒業生の意見や懸念事項を把握するためにアンケート調査を実施し、それらに対して適切な対応を行う。

4. 卒業生への協力要請

中高一貫校化に向けて卒業生の意見やアイデアを求めることで、卒業生がプロジェクトに関与しやすくなり、理解が深まる。

5. 定期的なコミュニケーション

卒業生とのコミュニケーションを定期的に行い、中高一貫校化に関する最新情報や進捗状況を共有する。

◎既存の学校を中高一貫校に改変する場合、教師の労働組合や校長会の調整や理解を深めるために以下の活動が効果的です。

1. 情報提供

中高一貫校のメリットや目的、教育内容、運営体制などの具体的な情報を提供し、理解を促す。

2. ワークショップや勉強会

中高一貫校に関するワークショップや勉強会を開催し、関心を持つ教師や校長に参加してもらい、理解を深める機会を提供する。

3. 対話の場の設定

教師の労働組合や校長会との定期的なミーティングや対話の場を設定し、意見交換や情報共有を行う。

4. 視察・研修の機会提供

既に中高一貫校が運営されている他の学校を視察したり、研修を受ける機会を提供することで、具体的なイメージを持ちやすくする。

5. 質疑応答の時間設定

教師や校長からの質問や懸念事項に対して、十分な時間を設けて丁寧に回答し、理解を深める。

6. 成功事例やデータの提示

他地域の中高一貫校の成功事例やデータを紹介し、中高一貫校の効果や安心感を伝える。

7. 共同プロジェクトの実施

中高一貫校化に向けた共同プロジェクトを立ち上げ、教師や校長が協力して取り組むことで、関与感や理解を深める。

8. フォローアップ対応

改変後も、定期的な情報発信や相談対応を行い、教師や校長とのコミュニケーションを維持する。

9. 継続的な評価と改善

中高一貫校化後の運営や教育効果について、継続的に評価を行い、必要に応じて改善策を講じることで、教師や校長の理解や協力を維持する。

※住民に対する説明会の案内事例

令和3年度開校

県立中学校・中等教育学校説明会

● 水戸第一,土浦第一…併設型中学校を設置
● 勝田…中等教育学校に改編

対象校(高校名)	日 時	会場(所在地)	定員(名)
水戸第一	令和2年 3月20日 (金・祝) 【午前の部】10:30～11:30 【午後の部】13:30～14:30	水戸第一高等学校 体育館 水戸市三の丸3-10-1	各1,000
土浦第一	令和2年 3月22日 (日) 【午前の部】10:30～11:30 【午後の部】13:30～14:30	土浦第一高等学校 体育館 土浦市真鍋4-4-2	各1,000
勝 田	令和2年 3月26日 (木) 【午前の部】10:30～11:30 【午後の部】13:30～14:30	ひたちなか市文化会館 大ホール ひたちなか市青葉町1-1	各1,350

※ 受付は、説明会の開始30分前から行います。
 ※ 駐車場に限りがあります。乗り合わせや公共交通機関利用などのご配慮をお願いします。学校が会場となる場合は、各校ホームページで駐車場や交通手段等をご確認ください。(水戸第一高等学校に関しては、駐車場のご利用はしておりません)

説明内容

- 中高一貫教育の概要について(県教育委員会)
(設置の趣旨,本県における先進事例の紹介,入学者選抜,今後のスケジュール等)
- 中高一貫教育を実施する高等学校の紹介(各高等学校)

対 象

- 現在,小学校4,5年生の児童及び保護者の方
- 学校関係者・教育関係者, その他興味・関心をおもちの方

申込方法

- **茨城県教育委員会ホームページ(下記URL,QRコード)からお申し込みください。**
 (URL:<https://www.edu.pref.ibaraki.jp/board/gakkou/koukou/gakkodukuri/tyuukou/about.html>)
※ インターネット以外(郵送・FAX等)による申込みは受けかねますのでご了承ください。

申込期間
令和2年2月25日(火)10:00～令和2年3月16日(月)17:00

- 申込みは各会場の定員までとなります。(先着順)

説明会に関するお問い合わせ先

茨城県教育庁学校教育部 高校教育改革・中高一貫校開設チーム

このような理解を得て地域住民や卒業生から期待され応援していただくために、可能な限り具体的にまた丁寧に説明することが大切です。

以上、今回の調査報告書を通じて、神戸が教育先進都市になるための課題が、少しでも明らかになり、課題解決に向けて動き出せることを願います。